高槻市文化財調査概要XXIV

嶋上遺跡群22

1998

高槻市教育委員会

嶋上遺跡群22

1．安満遺跡（97－1地区）　全景（西側から）

2．安満遺跡（97－1地区）　方形周溝墓1（南西側から）

3．安満遺跡（97－1地区）　井戸1（北側から）

4．安満遺跡（97－1地区）　土坑1（南側から）

はしがき

肥沃な平野がひろがる高槻の地は、さまざまな時代の遺跡が連綿といとなまれております。とくに新発見の安満宮山古墳におきましては、「青龍三年」銘をもつ方格規矩鏡や三角縁神獣鏡など5面の青銅鏡をはじめとするきわめて貴重な遺物がみつかり、高槻の地が淀川から瀬戸内、そして遥か中国大陸への玄関口として東西交通の要地であったことがうかがえるようになりました。

平成9年度は、安満宮山古墳をはじめとしまして、史跡今城塚古墳にはじめて学術調査のメスを入れることができるなど数多くの重要な調査を実施いたしました。この安満宮山古墳の眼下に広がる安満遺跡は日本を代表する弥生集落のひとつに数えられているところであります。平成9年度の調査におきましては、弥生時代に墓域としてひらかれた後、古墳時代から中世にかけては居住地として洪水などの自然災害とたたかいながらも各時代を通して淀川北岸地域の中心的な集落であったことをあらためて認識することができました。

嶋上郡衙跡ではおもに周辺地域の調査を実施してまいりました。このなかで郡衙南東部においては律令期の遺構・遺物のひろがりを確認し、郡衙周辺部の状況を知る手掛かりを得ることができました。

史跡今城塚古墳では規模確認調査を実施し、古墳の状況についてあらたな知見を得ることができました。その成果は古墳築造にかかる諸問題の他に中世山城の諸問題をも新たに提起されたのであります。今後も継続する規模確認調査でこれらの課題に対処できるような調査手法も講じてゆきたいと考えるところであり、それらの成果の集合を今城塚古墳の整備・公開に生かしてゆきたいと思っております。

最後に、本書をまとめるにあたり、ご教示やご協力いただいた多くの方々に、心から感謝申し上げます。

平成10年3月31日

高槻市立埋蔵文化財調査センター
所長　冨成哲也

例　　言

1．本書は、高槻市教育委員会が平成９年度国庫補助事業として計画、実施した高槻市所在の史跡・嶋上郡衙跡附寺跡周辺部及び市内遺跡の発掘調査事業（総額8,000,000円）の概要報告書である。

2．事業は、高槻市教育委員会の直営事業として実施し、大阪府教育委員会の助力を得て、平成９年４月15日着手、平成10年３月31日に終了した。

3．調査は、高槻市立埋蔵文化財調査センター（所長　冨成哲也、次長　森田克行）がおこなった。本書の執筆・図面作成・製図は、橋本久和、鐘ヶ江一朗、宮崎康雄、高橋公一、木曽広、川村雪絵がおこない、分担は文末に記した。遺構・遺物の写真撮影は清水良真が担当した。遺物整理については以下の各氏から援助をうけた。厚く感謝する。

井上明子・井上香恵子・木村さつき・白銀良子・高橋美喜子・栂靖代・西岡和江・松本信子

（順不同・敬称略）

4．調査の実施にあたり、以下に掲げる土地所有者の方々をはじめ、関係機関各位のご協力をいただいた。ここに記して感謝いたします。

堤隆・西村義隆・吉岡喜一郎・黒瀬和也・山本利男・馬場シゲ子・松村隆夫・近藤政之・藤當朱美・藤本忠良・谷内公孝・三村尚・三村サト・森和夫・畑中敏夫・寒川團之輔・松本茂昭・松村洋・森永武男・森永イツ子・秋吉広太・小園繁・芝田暢能・平岡博光・金森雅樹・金森智恵子・巽明男・池尻友子・上川佳孝・釘島宣彦・福地尚・清水武・清水裕

（順不同・敬称略）

目　　次

Ⅰ　嶋上郡衙跡 …… 1
Ⅱ　土室遺跡 …… 13
Ⅲ　宮田遺跡 …… 14
Ⅳ　中城遺跡 …… 16
Ⅴ　宮之川原遺跡 …… 19
Ⅵ　芥川遺跡 …… 22
Ⅶ　大蔵司遺跡 …… 23
Ⅷ　高槻城跡 …… 25
Ⅸ　安満遺跡 …… 28
Ⅹ　今城塚古墳規模確認調査 …… 41
Ⅺ　まとめ …… 42

No	遺跡名（地区）	調査地	面積（㎡）	申請者
1	嶋上郡衙跡(4-J・K)	郡家本町936	337.04	堤　隆
2	〃　(7-C)	清福寺町781－1・4、788-1	228.00	西村義隆
3	〃　(7-C・D)	清福寺町781－2	165.28	吉岡喜一郎
4	〃　(27-K)	清福寺町851－5	95.35	黒瀬和也
5	〃　(28-O)	清福寺町836－3・4	245.66	山本利男・馬場シゲ子
6	〃　(43-F)	郡家新町395－19	90.54	松村隆夫
7	〃　(57-G)	川西町一丁目972－7	99.54	近藤政之
8	〃　(67-C)	川西町一丁目1087－17	57.38	藤當朱美
9	〃　(74-K)	郡家新町156－36	52.62	谷内公幸
10	〃　(74-N)	郡家新町159－10	71.93	藤本忠良
11	〃　(84-B)	今城町164－18	139.98	三村尚・サト
12	土室遺跡(97-1)	上土室六丁目131－39・51	78.58	森　和夫
13	宮田遺跡(97-1)	宮田町三丁目89－2	214.75	畑中敏夫
14	〃　(97-2)	宮田町三丁目88－5	111.57	寒川團之輔
15	中城遺跡(97-1)	昭和台町二丁目162	93.07	松本茂昭
16	〃　(97-2)	昭和台町二丁目129	263.16	松村　洋
17	〃　(97-3)	昭和台町二丁目162－2	129.73	森永武男・森永イツ子
18	〃　(97-4)	昭和台町二丁目156－1	163.37	秋吉広太
19	宮之川原遺跡(97-1)	宮之川原五丁目527－18の一部	42.67	小園　繁
20	〃　(97-2)	宮之川原五丁目527－18の一部・19	85.34	芝田暢能
21	〃　(97-3)	宮之川原五丁目505－36	80.84	平岡博光
22	芥川遺跡(97-1)	殿町70－1・2の一部	141.39	金森雅樹・智恵子
23	大蔵司遺跡(97-1)	大蔵司三丁目295－2	80.16	巽　明男
24	〃　(97-2)	大蔵司三丁目295-1、295-2の一部	406.11	池尻友子
25	高槻城跡(97-1)	大手町1168－2・5・6	315.79	上川佳孝
26	〃　(97-2)	出丸町1244－12	87.48	釘島宣彦
27	〃　(97-3)	出丸町992－1・3・6	358.85	福地　尚
28	安満遺跡(97-1)	高垣町271	965.00	清水　武
29	〃　(97-2)	高垣町263－1	349.00	清水　裕

平成９年度　市内遺跡調査一覧

Ⅰ　嶋上郡衙跡

1．嶋上郡衙跡（4－J・K地区）の調査

調査地は高槻市郡家本町936にあたり、小字名は「東垣内」である。現状は宅地である。今回、個人住宅建設工事に先立って発掘調査を実施した。当該地は郡家本町の丘陵南端部に位置しており、遺跡の北側中央部にあたる。周辺では弥生時代後期から中世にかけての遺構、遺物などが発見されている。

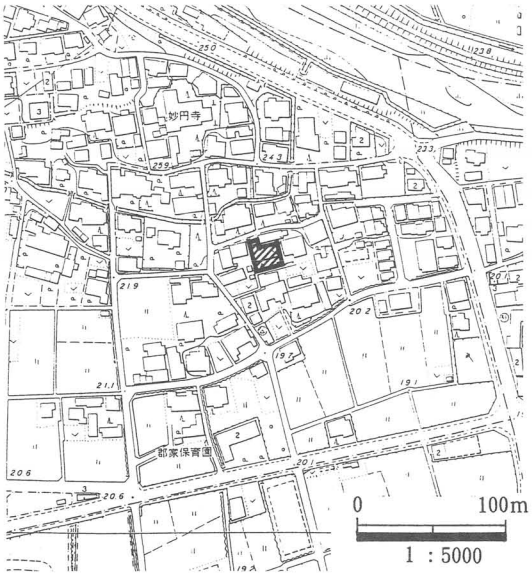


図1．嶋上郡衙跡（4－J・K地区）調査位置図

調査は重機で盛土を除去したのち、人力で掘削・精査をおこなった。土層を観察すると、住宅建築の際に整地がなされており、地山より上位はすべて最近の整地土であった。地山は東から西に向かってゆるやかに傾斜し、また調査区の東側で北から南にかけて約0.5mの段差がみられた。遺構は検出されず、遺物は攪乱坑より土師器片および須恵器片が数点出土したのみであった。

（川村）

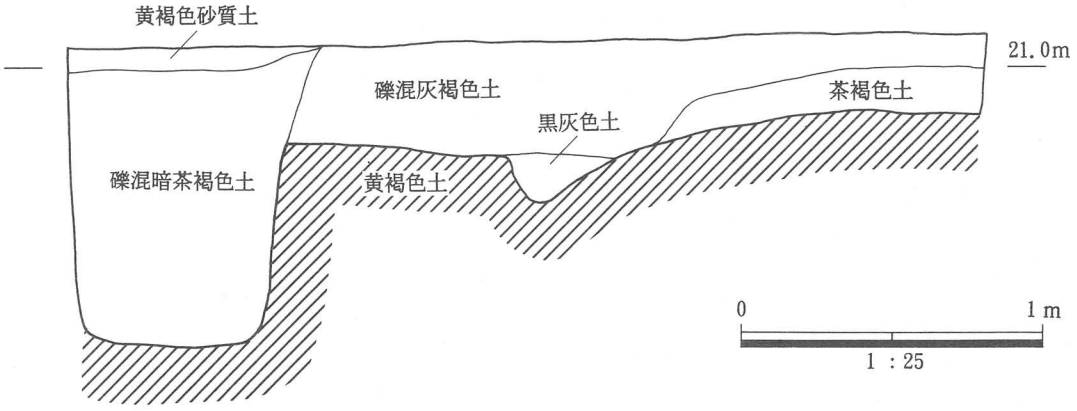


図2．4－J・K地区土層図

2．嶋上郡衙跡（７－Ｃ地区）の調査

調査地は高槻市清福寺町781－１・４、788－１にあたり、小字名は「清福ノ内」、現状は宅地である。

このたび、個人住宅の建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。

当該地は阿久刀神社東側で北側に芥川の堤防が迫る住宅地である。これまでの周辺の調査では弥生後期から古墳時代にかけての竪穴住居跡をはじめ、遺構・遺物が数多く検出されている。

調査は重機で盛土を除去し、層序の観察と遺構・遺物の確認作業を実施した。層序は盛土（0.3m）、灰色土（0.3m）、灰褐色土（0.2m）、褐色土（0.1m）、暗褐色土（0.2～0.4m）と堆積し、地山は黄褐色土である。暗褐色土が遺物包含層で、弥生土器の小破片が少量含まれている。また、地山面は東側に下降しているが人為的な掘り込みとはみられず、柱穴なども検出できなかった。

今回の調査では小範囲であり、明確な遺構・遺物は検出できなかったが、遺物包含層の広がりを確認することができた。しかし隣接する東側の７－Ｃ・Ｄ地区の調査では芥川の氾濫を示すような堆積土が確認されており、嶋上郡衙関連遺構の北東限をしめしているようである。

（橋本）

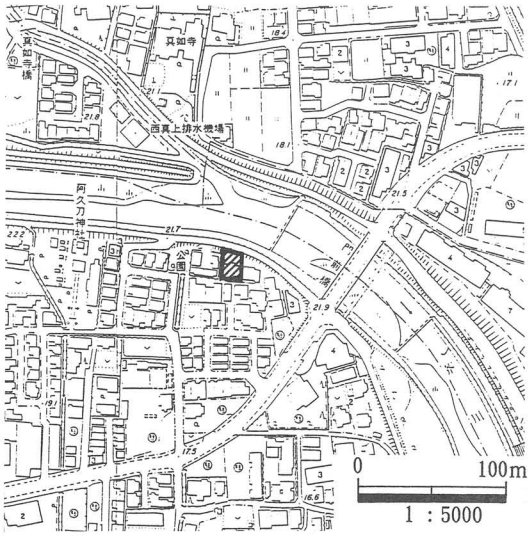


図３．嶋上郡衙跡（７－Ｃ地区）調査位置図

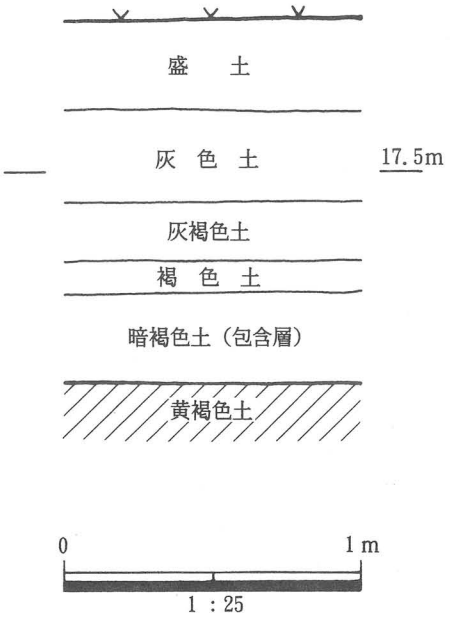


図４．嶋上郡衙跡（７－Ｃ地区）土層模式図

3．嶋上郡衙跡（７－Ｃ・Ｄ地区）の調査

調査地は高槻市清福寺町781－２にあたり、小字名は「清福ノ内」、現状は宅地である。

このたび、個人住宅の建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。

当該地は阿久刀神社東側の地区で、すぐ北側には芥川の堤防が迫っている。早くから住宅地として開発されているが、阿久刀神社周辺では奈良時代以前の建物跡や弥生時代後期から古墳時代にかけての竪穴住居跡などが検出されている。

調査は重機で盛土を除去し、以下は人力で掘削作業を実施した。基本的な層序は盛土(0.4m)、黄色砂（0.2m）、灰褐色砂（0.3m）、灰褐色砂礫（0.2m）と堆積し、地山は砂礫の混じる黄灰色砂で東側へ下降気味につづく。

今回の調査では盛土以下は芥川の氾濫を想定させる砂や砂礫の堆積が確認され、遺構・遺物はまったく検出されなかった。嶋上郡衙に関連する遺構の北東部への拡がりの限界をしめしている。

（橋本）

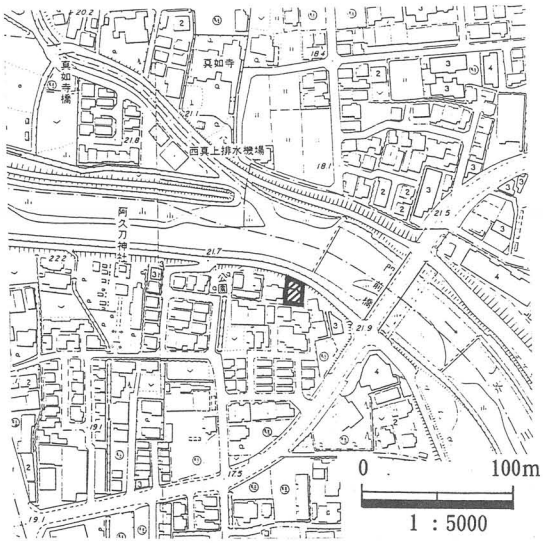


図５．嶋上郡衙跡（７－Ｃ・Ｄ地区）調査位置図

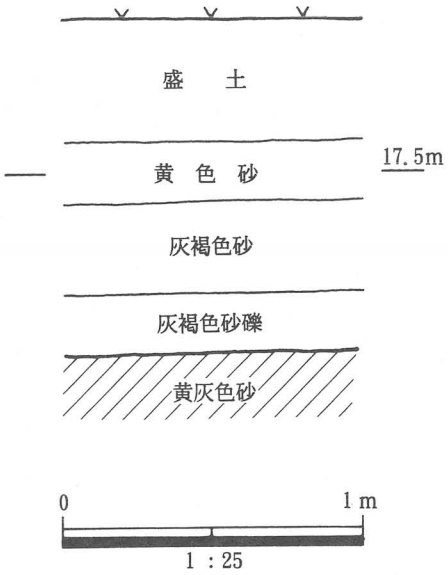


図６．嶋上郡衙跡（７－Ｃ・Ｄ地区）土層模式図

4．嶋上郡衙跡（２７－Ｋ地区）の調査

高槻市清福寺町851－５にあたり、小字名は「清福ノ内」と称する。現状は宅地であり、今回個人住宅建設工事が計画されたため、事前に調査を実施した。届出地は、史跡嶋上郡衙跡附寺跡の東に接する。周辺では、郡衙関連の遺構は明確ではないものの、遺物包含層が厚く堆積することが知られている。

調査は届出地の中央に調査坑を設定し、重機で盛土等を除去したのち、人力で掘削して精査した。基本層序は暗褐色土（0.2m）、暗灰色土（0.3m）、黒褐色礫土〔包含層〕（0.4m）、茶褐色礫土〔地山〕である。地山面の標高は約15.5mをはかる。

調査区内からは柱穴や落ち込みなどを検出した。柱穴の平面形には方形と円形の2種類がある。方形の柱穴は一辺0.7m、深さ0.1～0.2m、円形の柱穴は直径0.2～0.4m、深さ0.1～0.2mをはかり、いずれも建物としてまとめるには至らなかった。

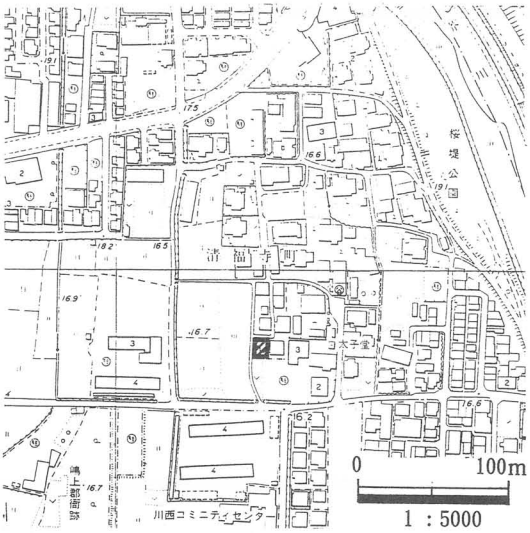


図7．嶋上郡衙跡（27－K地区）調査位置図

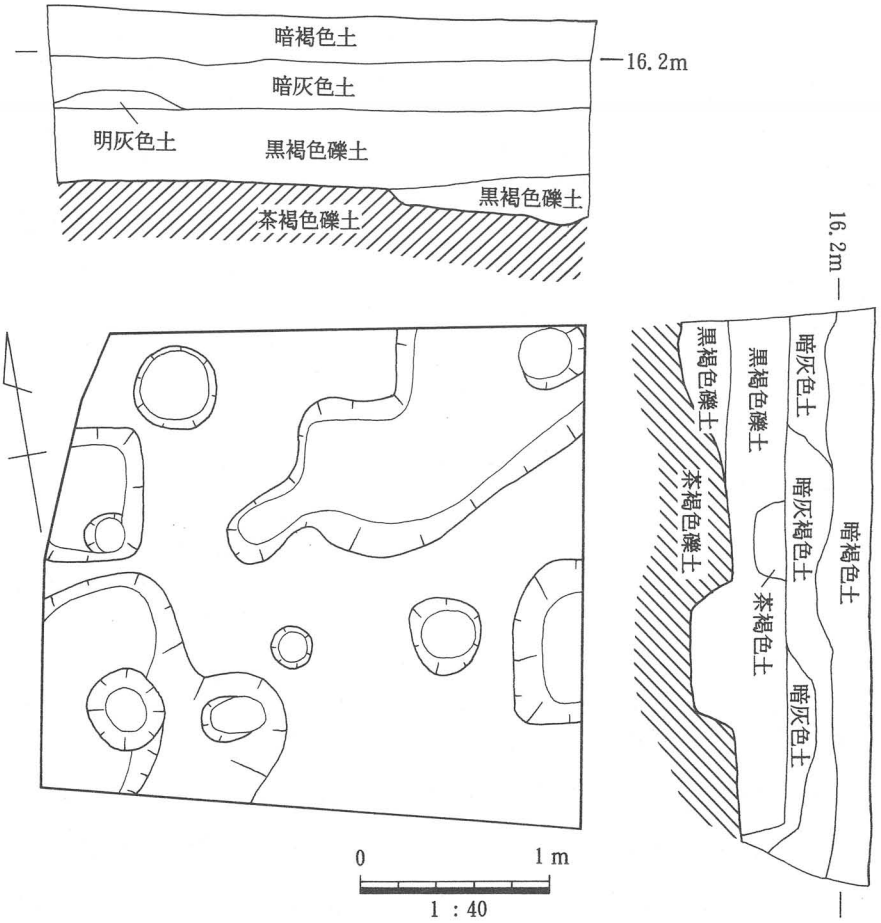


図8．嶋上郡衙跡（27－K地区）平面図・断面図

遺物は柱穴や包含層から土師器・須恵器・製塩土器などが少量出土したものの、すべて細片となっていて全容がしれるものはない。時期はいずれも８世紀代とかんがえられる。

（鐘ヶ江）

５．嶋上郡衙跡（28―Ｏ地区）の調査

高槻市清福寺町836―3･4にあたり、小字名は「清福ノ内」と称する。現状は畑地である。調査地は史跡指定地の東方にあたり、郡衙に関連する遺構・遺物の検出が予測されたため、住宅建設に先立って発掘調査を実施した。

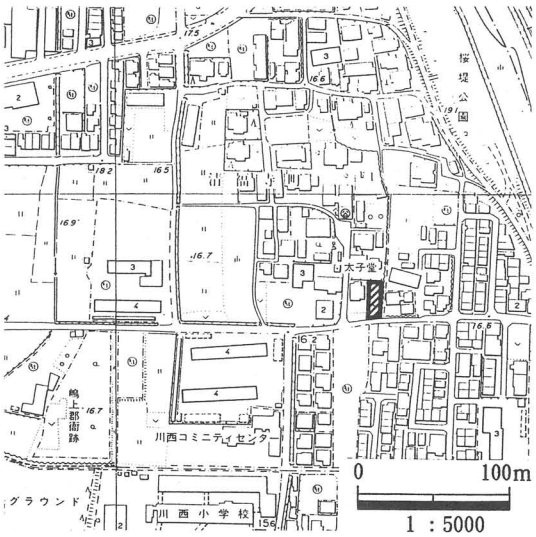


図９．嶋上郡衙跡（28－Ｏ地区）　調査位置図

調査は調査区中央部にトレンチを設定しておこなった。また整地土等が厚く堆積していることが予測されたため、重機を使用して耕作土・整地土等を除去した後、人力で地山面まで掘り下げ、遺構の確認と層序の観察をおこなった。

基本的な層序は、耕作土・整地土（0.15～0.3m）、暗灰褐色砂（0.05～0.3m）、暗褐色砂（0.05～0.6m）、灰褐色粘土（0.2m）〔遺物包含層〕、灰黒褐色粘土（0.06～0.4m)、黄灰褐色砂礫〔地山〕である。地山面の標高は、15.8mである。地山が砂礫層のためか、遺構は検出されなかった。遺物は灰褐色粘土層［包含層］から出土したのみである。

遺　物（図版第２ａ）

包含層から出土した遺物には弥生土器（１～４）・土師器（５）・須恵器（６）・瓦質羽釜（７）・瓦（８・９）などがあり、いずれも細片となっているために、完形に復原できるものはない。

弥生土器には壺・甕・高杯などがある。広口壺の口縁部（１）は端部を上下に拡張し、端面には櫛描波状文、上面は扇形文をほどこしている。甕体部（２）は外面にタタキ目をとどめ、内面はヨコハケ後ナデ調整をほどこしている。口縁部のヨコナデは肩までおよぶ。高杯脚部（３）は中実の柱状部のみ遺存し、風化のため調整等はあきらかでない。脚（４）は裾から斜め上方へ直線的にのびる。直径0.9cmの円孔を穿っている。内面の調整はヨコハケ調整、外面はタテハケ後なでており、端部はヨコナデをほどこす。甕の口縁部（５）はやや

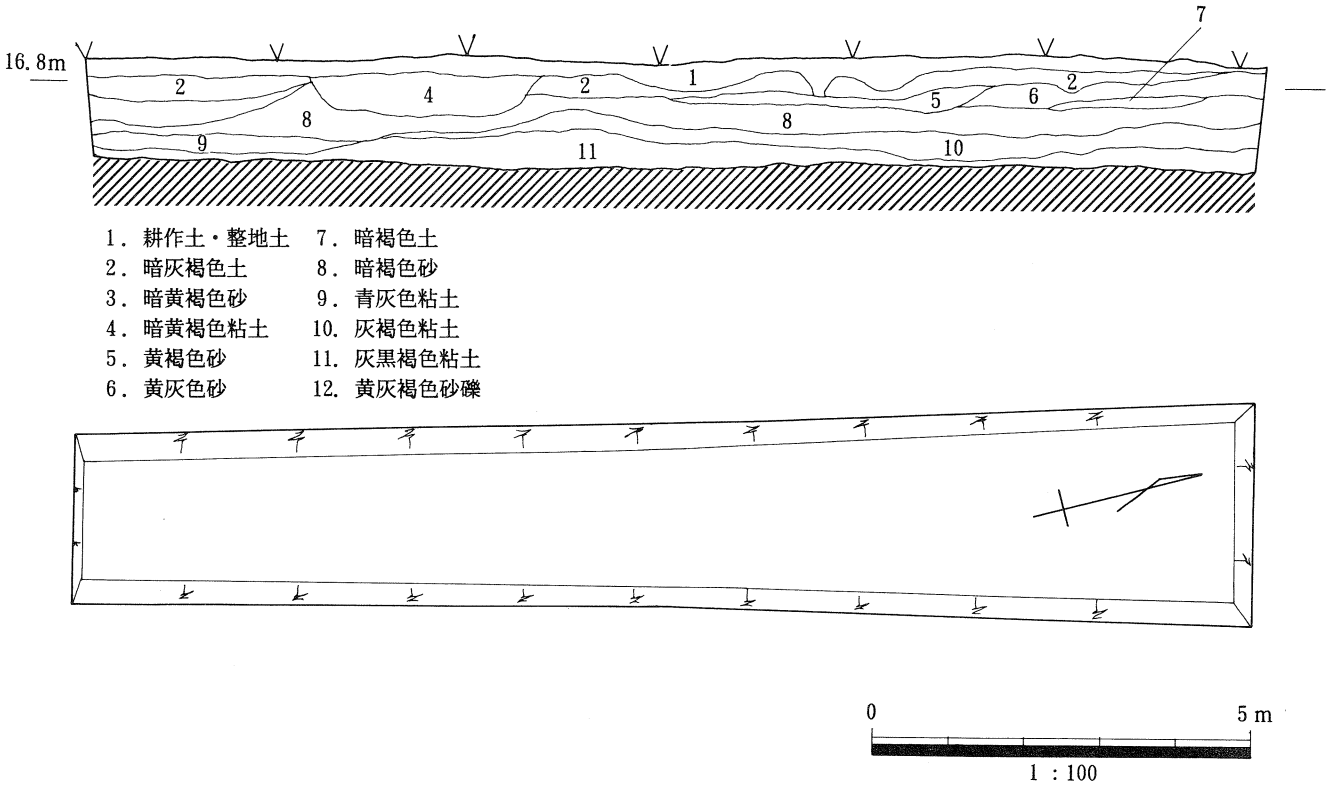


図10. 28－O地区　平面図・断面図

内湾気味に外上方へ立ち上がり、端部は面をもつ。

須恵器（6）は奈良時代の蓋である。扁平な天井部からゆるやかに湾曲し、端部は下方へ突出て面をもつ。外面は回転ヘラ削り調整、内面は回転ナデ調整をほどこす。

7は羽釜の口縁部である。口縁部の立ち上がりが垂直に近く、口縁部外面に3条の沈線、口縁端部から3cm下方に鍔状の凸帯がめぐる。内面はハケ後ヨコナデ調整、外面はヘラナデ調整している。

丸瓦（8）は凸面をタタキ後ナデ調整を施し、凹面に布目が遺存する。焼成は良い。軒丸瓦（9）は中心に左巻きの三ツ巴文をおき、その周囲に連珠文を配したもので、瓦当径15.2cmに復原できる。直径0.9cmの連珠文が11個遺存している。

小　結

今回の調査地からは、弥生時代から中世の遺物が出土したものの、竪穴住居跡や掘立柱建物跡などの明確な遺構は検出できなかった。

当該地の周辺からは弥生時代以降の遺構・遺物が検出されている。今回出土した遺物はいずれも風化があまり進んでおらず、近くに住居等の生活痕跡が埋れているものと思われる。

（木曽）

6．嶋上郡衙跡（43―Ｆ地区）の調査

調査地は高槻市郡家新町395－19にあたり、小字名は「仮又」である。現状は宅地である。今回、個人住宅建設工事に先立って発掘調査を実施した。当該地は嶋上郡衙跡の西側中央部にあり、芥川廃寺の南西約250ｍのところに位置する。過去の調査によりこの付近は遺構の希薄な地域であることが判明している。

調査は届出地の中央に東西2.1ｍ、南北2.0ｍの調査区を設定し、重機で盛土を除去したのち、人力で掘削、精査をおこなった。層序は盛土（１ｍ）、耕作土（0.2ｍ）、白灰色粘土（0.1ｍ）、黄灰色粘土［地山］である。遺構は検出されなかったが、白灰色粘土層の直上で土師器片が数点出土した。（川村）

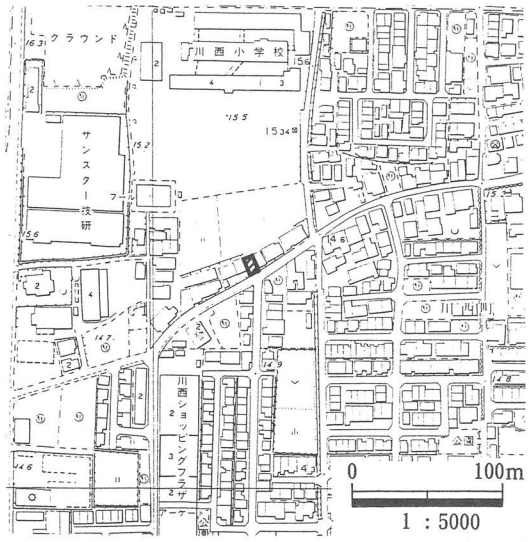


図11．嶋上郡衙跡（43－Ｆ地区）調査位置図

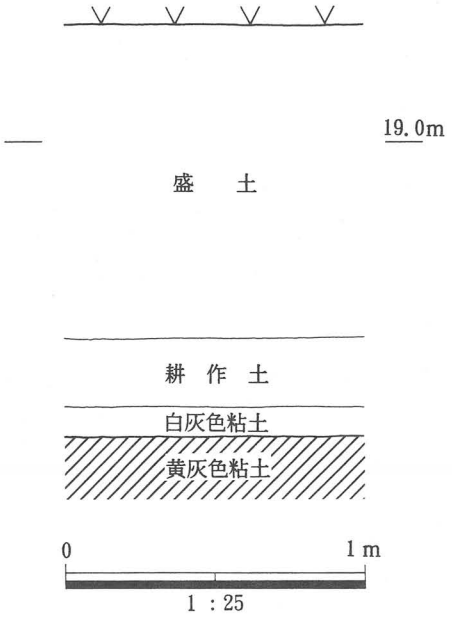


図12．43－Ｆ地区　土層模式図

7．嶋上郡衙跡（57―Ｇ地区）の調査

調査地は高槻市川西町一丁目972―７にあたり、小字名は「大井田」である。今回の調査は個人住宅建設に先立つもので、重機により盛土、整地土等を除去したのち、人力で遺構・遺物の検出につとめた。

層序は盛土（0.2ｍ）、旧耕作土（0.1ｍ）、床土・整地土（0.1～0.15ｍ）、暗褐色土（0.15ｍ）、黄褐色土〔地山〕である。地山面の標高は13.9～14.2ｍをはかり、北から南へむかって緩やかに下降していた。

遺構・遺物（図版第３、図14）

検出した遺構は溝１条、土坑２基、ピット等である。

溝１は調査区北端で検出した。東西方向に直線的にのび、方向はN76°Eを示す。検出長1.4m、幅0.6m、深さ0.2mをはかり、断面の形状は逆台形である。溝内には均質な暗灰色粘土が堆積しており、遺物は出土しなかった。

図13. 嶋上郡衙跡（57－G地区）調査位置図

土坑１は調査区中央部で検出した。平面形は東西方向に蛇行しながら細長くのびる不定形なもので、両端は調査区外に続く。全長1.5m以上、最大幅0.9m、深さ0.6mをはかり、埋土は黒色粘土である。遺物は出土しなかった。

土坑２は土坑１の約１m南側に位置する。1.2m×0.6m以上の方形で、さらに西側へひろがっている。深さは0.2mをはかり、断面は鍋底状を呈している。埋土は暗褐色土で、遺物は出土しなかった。

ピットは調査区の南半部で４個検出した。直径0.2mの円形と、一辺0.4mの方形を呈するものが２個ずつあり、深さはいずれも0.2mである。これらは直線上に位置するものの建

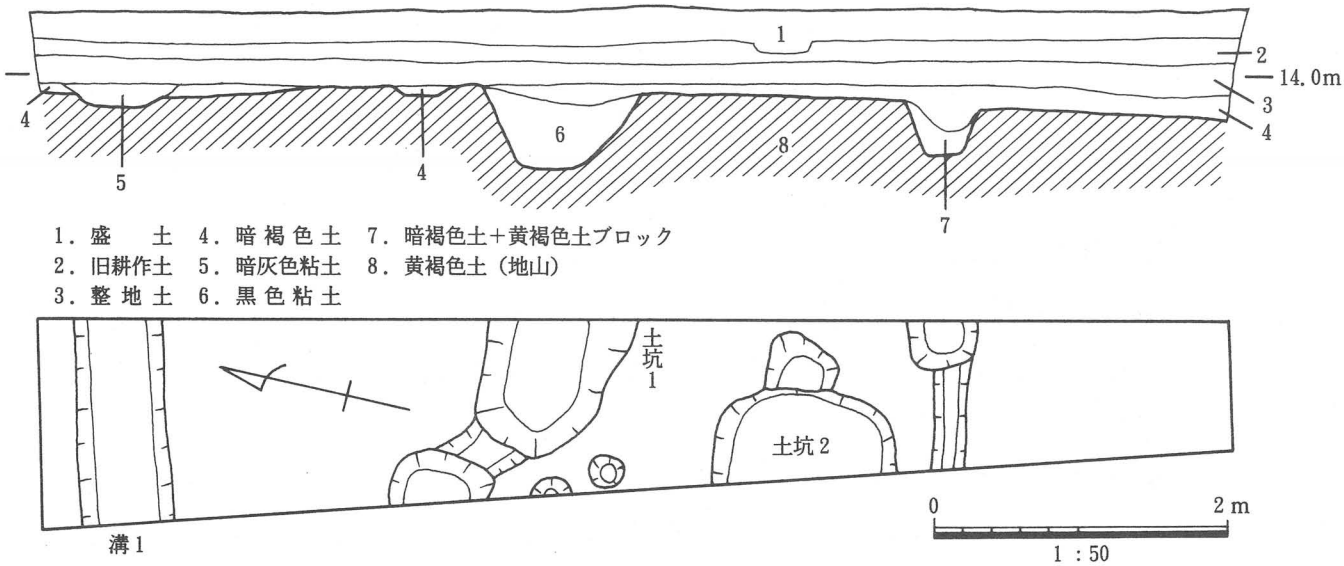


図14. 嶋上郡衙跡（57－G地区）平面図・土層図

物等のまとまりはみられない。

遺物は包含層から奈良・平安時代の須恵器や土師器の小片が数点出土したのみである。

小　結

今回検出した遺構は出土遺物がなく、それぞれの時期はあきらかでない。このうち溝１はこれまでの調査で判明している山陽道と同じ方向性を示すものの、想定ラインからやや南側にあたることや、奈良・平安時代の遺物を含む包含層を切ることから帰属時期は中世以降とかんがえられる。　（宮崎）

８．嶋上郡衙跡（67―Ｃ地区）の調査

高槻市川西町一丁目1087－17にあたり、小字名は「千原樋」と称し、現状は宅地である。

このたび、個人住宅の新築工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。

当該地は西国街道の南約100ｍに位置する。遺跡の南端近くにあたることから、遺構・遺物の希薄な地域となっている。

調査は、重機を用いて盛土・整地土等を除去した後、人力によって遺構・遺物の検出につとめた。基本的層序は、盛土（1.1ｍ）、耕作土(0.2ｍ)、床土(0.05ｍ）、緑灰色粘土(0.25ｍ）、黄褐色砂質粘土〔地山〕であった。遺構・遺物は検出しなかった。　（木曽）

図15. 嶋上郡衙跡（67－Ｃ地区）調査位置図

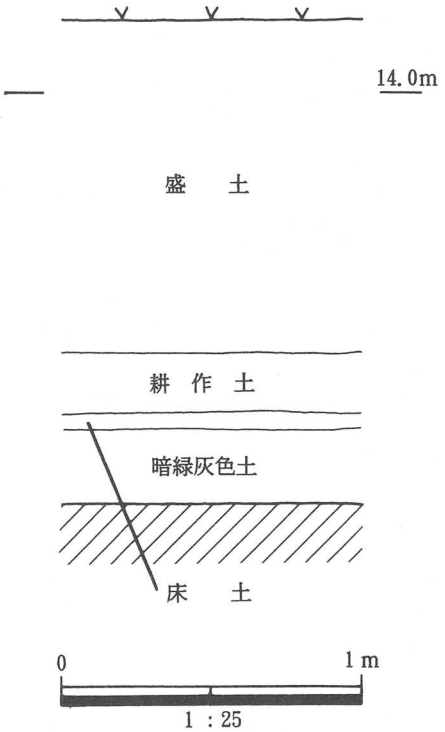


図16. 嶋上郡衙跡（67－Ｃ地区）土層模式図

9．嶋上郡衙跡（74―K地区）の調査

高槻市郡家新町156－36にあたり、小字名は「東藤ヶ本」と称する。現状は宅地である。個人住宅の新築工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。

今回の調査地は本遺跡の南西部に位置し、弥生時代中期の方形周溝墓群や古墳時代後期の古墳群が広がっている地域にあたる。

調査は重機で盛土等を除去しながら層序を観察し、遺構の確認につとめた。層序は盛土（0.8m）、耕作土（0.2m）、灰褐色砂（0.1m）、青褐色粘土〔地山〕であった。調査区が極小なこともあって、遺構・遺物はまったく検出できなかった。　（木曽）

図17．嶋上郡衙跡（74－K地区）調査位置図

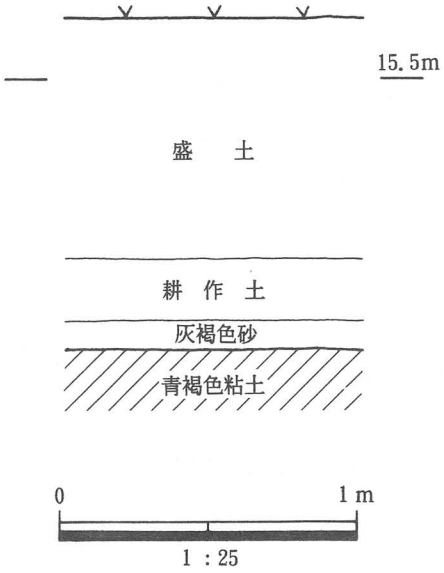


図18．嶋上郡衙跡（74－K地区）土層模式図

10. 嶋上郡衙跡（74―N地区）の調査

調査地は、高槻市郡家新町159―10にあたり、小字名は「東藤ヶ本」と称する。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設工事が計画されたため事前に発掘調査を実施した。

今回の調査地は、遺跡の南側中央部に位置し、周辺部の調査結果から弥生時代中期の方形周溝墓や古墳時代後期の古墳が分布していることが判明している。

調査は人力で層序の観察と遺構の確認をおこなった。層序は盛土(0.4m）、青灰色礫(0.8m）、耕作土(0.3m）、床土（0.05m）、青灰色粘土〔地山〕である。

今回の調査は調査区が狭小なこともあって、明確な遺構・遺物は検出することができなかった。

（木曽）

図19. 嶋上郡衙跡（74－N地区）調査位置図

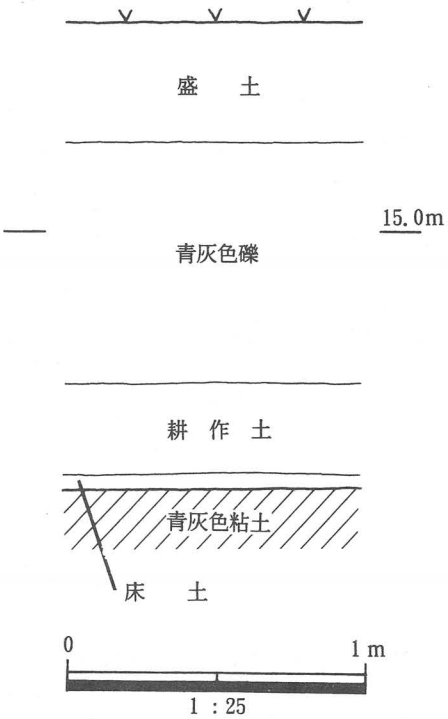


図20. 嶋上郡衙跡（74－N地区）土層模式図

11. 嶋上郡衙跡（84―Ｂ地区）の調査

調査地は高槻市今城町164―18にあたり、小字名は「中久保」である。現状は宅地である。今回、個人住宅建設工事に先立って発掘調査を実施した。当該地は嶋上郡衙跡の南西部に位置しており、過去の調査により遺構の希薄な地域であることが判明している。

調査は届出地の中央に調査区を設定し、重機で盛土を除去したのち、人力で掘削、精査をおこなった。層序は盛土（1.6m）、耕作土（0.4m）、灰白色土［地山］である。遺構・遺物は検出されず、遺物包含層も確認できなかった。（川村）

図21. 嶋上郡衙跡（84－Ｂ地区）調査位置図

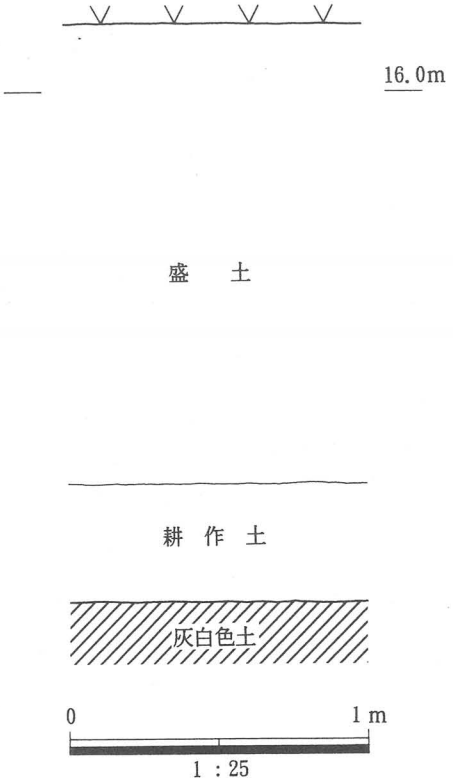


図22. 84－Ｂ地区　土層模式図

Ⅱ　土室遺跡

12. 土室遺跡（97―１地区）の調査

調査地は高槻市上土室六丁目131―39及び131―51にあたり、小字名は「石コカシ」である。現状は宅地である。今回、個人住宅建設工事に先立って発掘調査を実施した。

当該地は遺跡の西辺にあたり、遺構の希薄な地域に位置する。

基本的な層序は、盛土（1.15m）、耕作土（0.15m）、床土（0.1m）で、その下層は黄褐色粘土の地山となる。遺物等は全く出土せず、遺構も確認できなかった。　　（高橋）

図23. 土室遺跡（97－１地区）調査位置図

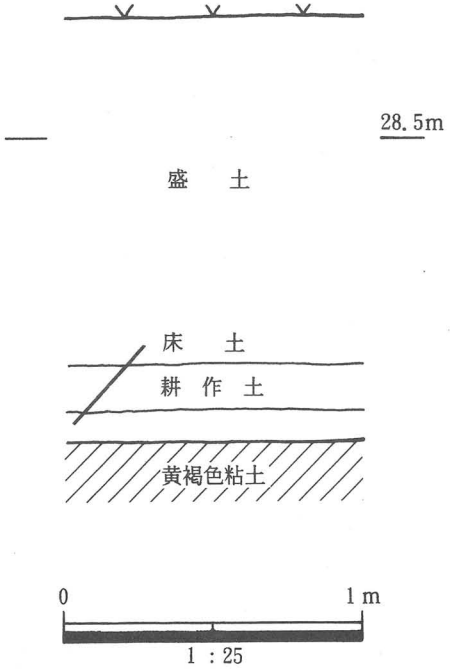


図24. 土室遺跡（97－１地区）土層模式図

Ⅲ　宮田遺跡

13. 宮田遺跡（97―１地区）の調査

宮田遺跡は代表的な中世集落遺跡のひとつとして知られ、継続的に調査が行われている。今年度におこなった２つの調査地の周辺では、その東方に当たる平成４年度の調査において、中世の遺構のほか、弥生時代にさかのぼる土壙墓から石剣が出土しているのは特筆される。（高槻市教育委員会編『嶋上遺跡群17』）

今回の調査地は、高槻市宮田町三丁目89―２にあたり、小字名は「鎌木」である。現状は宅地である。個人住宅建設工事に先立って発掘調査を実施した。

敷地の中央付近に調査区を設定し、重機で掘り下げ、人力により精査した。基本的な層序は、盛土（0.2m）、耕作土・床土（0.2m）、暗灰色粘質土［包含層］（0.1m）で、淡灰褐色粘質土の地山となる。この地山面で不定形の落ち込みを検出した。大半が調査区外となり全貌は不明だが、およそ東西1.5m、南北2.5m分を確認した。深さは0.3mを測り、埋土は灰色粘土、遺物等は出土していない。落ち込みの性格については明らかでないが、包含層が残存し、地山面が良好に検出できるところから、周辺に遺構が存在する可能性が高いといえよう。

（高橋）

図25. 宮田遺跡（97－１地区）調査位置図

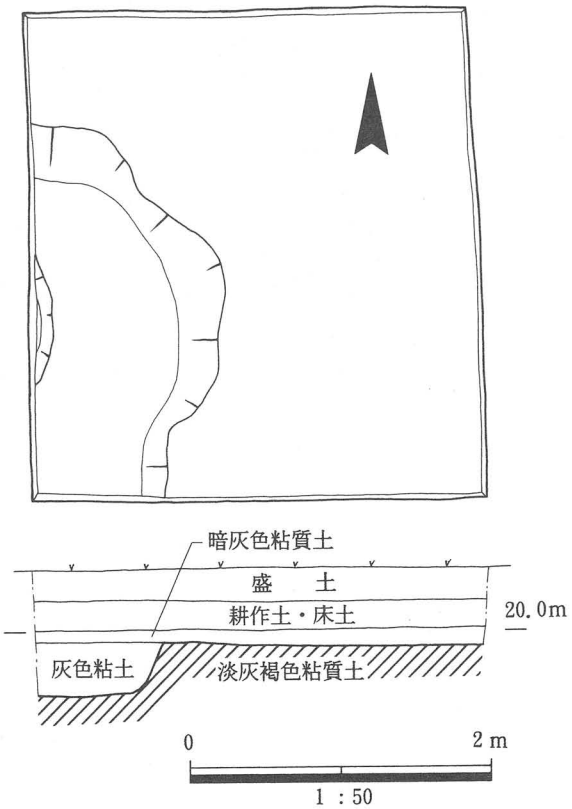


図26. 宮田遺跡（97－１地区）平面図・土層図

14. 宮田遺跡（97―2地区）の調査

調査地は宮田町三丁目88―5にあたり、小字名は「弓場前」と称する。現状は宅地で、今回、個人住宅建設工事に先立って、発掘調査を実施した。

厚さ0.1mの耕作土を除去すると、淡黄灰色粘土となる。この層は色調・硬さ等で地山と推測できたが、調査区の一部を掘り下げ、0.4mの厚みを確認し、あらためて地山と認識した。

一方、淡黄灰色粘土の上面では小規模な南北溝を検出した。幅0.24～0.15m、深さ0.1mで、埋土は淡灰色粘質土である。埋土から遺物等は検出されず、その性格は定かではないが、近代以降の耕作に伴うものとみられる。（高橋）

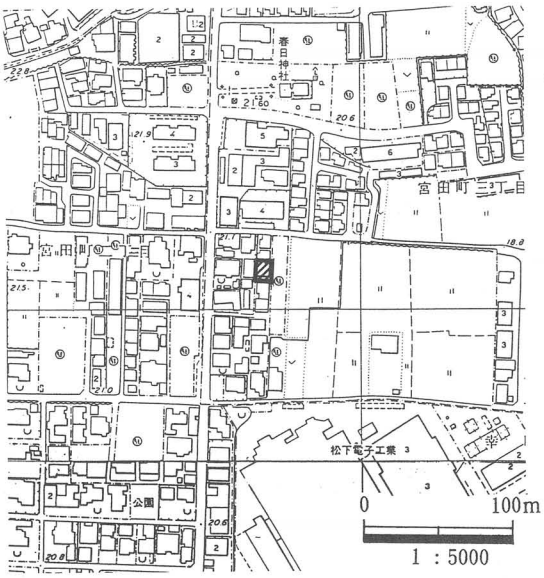


図27. 宮田遺跡（97－2地区）調査位置図

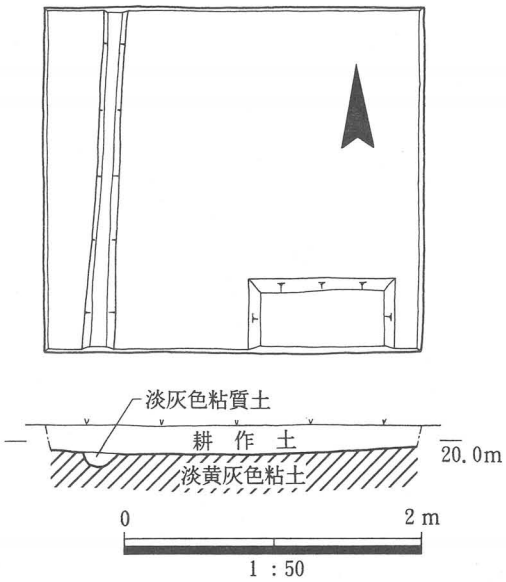


図28. 宮田遺跡（97－2地区）平面図・土層図

Ⅳ　中城遺跡

15. 中城遺跡（97―1地区）の調査

中城遺跡は富田礫層によって形成された丘陵の縁辺部に位置し、従来より弥生土器等の散布地として知られていた。遺跡は径約200mの範囲にひろがると推定され、標高は15.0mを測る。

今回の調査地は高槻市昭和台二丁目162にあたり、小字名は「慶瑞寺」と称する。現状は宅地である。調査は層序の観察と遺構・遺物の確認をおこなった。層序は盛土（0.3m）、黄褐色粘土（0.1～0.3m）、黄褐色礫土〔地山〕であった。調査区が狭小なためか遺構・遺物は検出できなかった。　（木曽）

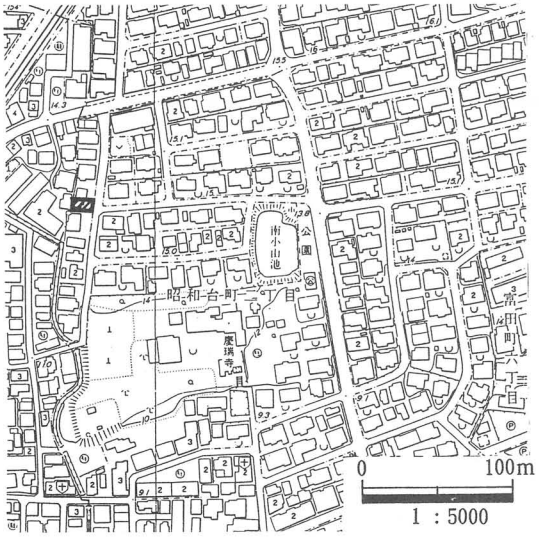


図29. 中城遺跡（97－1地区）調査位置図

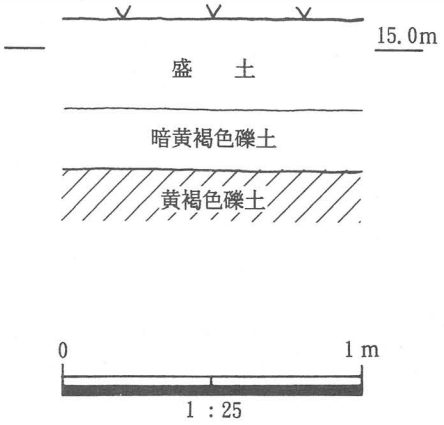


図30. 中城遺跡（97－1地区）土層模式図

16. 中城遺跡（97―2地区）の調査

調査地は高槻市昭和台町二丁目129にあたる。小字名は「安房」、現状は宅地である。個人住宅建設工事に先立って発掘調査を実施した。

厚さ0.6mの盛土の下層はすぐに明黄褐色砂質土の地山となり、包含層等及び遺構等は確認できなかった。当該地は北側からのびる富田台地に位置しており、宅地造成の際にかなり地盤が削平されたものとみられる。　（高橋）

図31. 中城遺跡（97－2地区）調査位置図

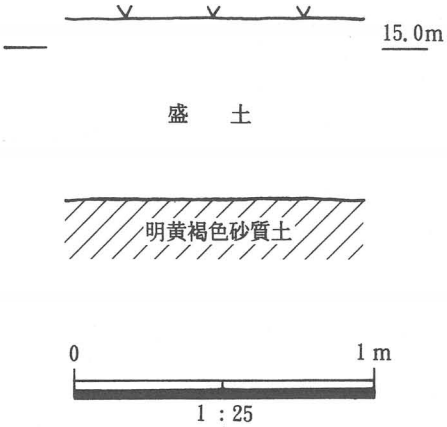


図32. 中城遺跡（97－2地区）土層模式図

17. 中城遺跡（97—3地区）の調査

調査地は高槻市昭和台二丁目162—2にあたり、小字名は「慶瑞寺」と称する。現状は宅地である。

このたび、個人住宅の建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。

層序は盛土（0.1～0.2m）、黄褐色粘土（0.05m～0.1m）、青灰色土（0.05～0.1m）、黄褐色礫土〔地山〕であった。調査区が狭小なため、遺構・遺物は検出できなかった。

（木曽）

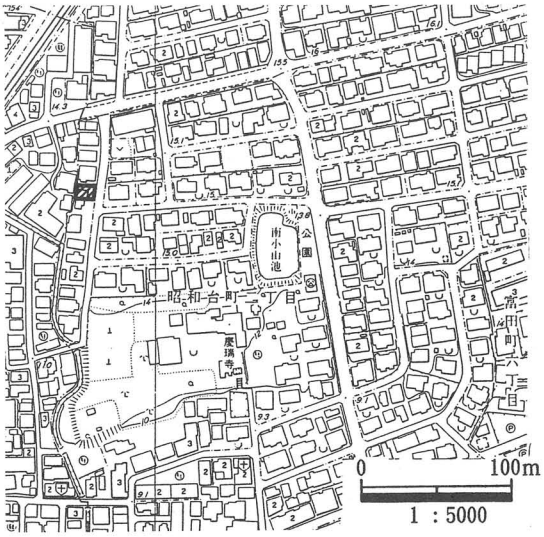


図33. 中城遺跡（97－3地区）調査位置図

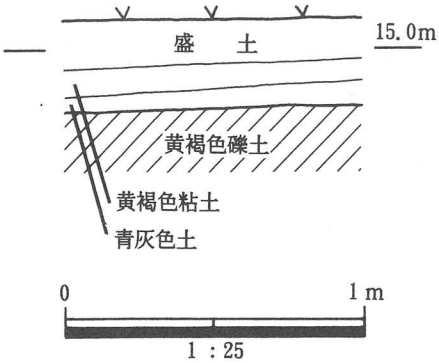


図34. 中城遺跡（97－3地区）土層模式図

18. 中城遺跡（97―4地区）の調査

高槻市昭和台二丁目156―1にあたり、小字名は「慶瑞寺」と称する。現状は宅地である。

当該地は慶瑞寺のすぐ北側にあたる。層序は盛土（0.15m）、暗黒灰色土（0.1m）、暗褐色土(0.15m）、黄褐色礫土〔地山〕であった。遺構・遺物は検出されなかった。

富田台地の先端部に位置する中城遺跡ではこれまで数回の調査がおこなわれてきたが、明確な遺構は乏しい。一帯は中世の集落跡と考えられるものの、調査範囲が狭少なためか詳細は明らかにできなかった。（木曽）

図35. 中城遺跡（97－4地区）調査位置図

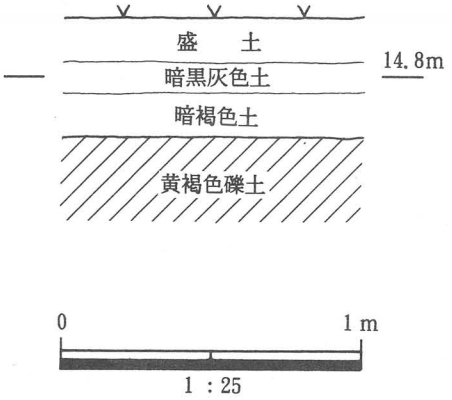


図36. 中城遺跡（97－4地区）土層模式図

V　宮之川原遺跡

19. 宮之川原遺跡（97－1地区）の調査

調査地は高槻市宮之川原五丁目527－18の一部にあたり、小字名は「大明神」である。現状は宅地である。今回、個人住宅建設工事に先立って発掘調査を実施した。付近では当該地の北約100mの幼稚園における調査で弥生時代後期の住居跡が検出されているほかは広い面積の調査例がなく、遺跡の実態はあまり分かっていない。

調査は届出地の中央に調査区を設定し、重機で盛土を除去したのち、人力で掘削、精査をおこなった。層序は盛土（1.5m）、耕作土（0.2m）、灰褐色砂礫土である。この灰褐色砂礫土は、周辺一帯でみられる河床堆積と考えられる。遺構・遺物ともに検出されず、遺跡の広がりを確認することはできなかった。　（川村）

図37. 宮之川原遺跡（97－1地区）調査位置図

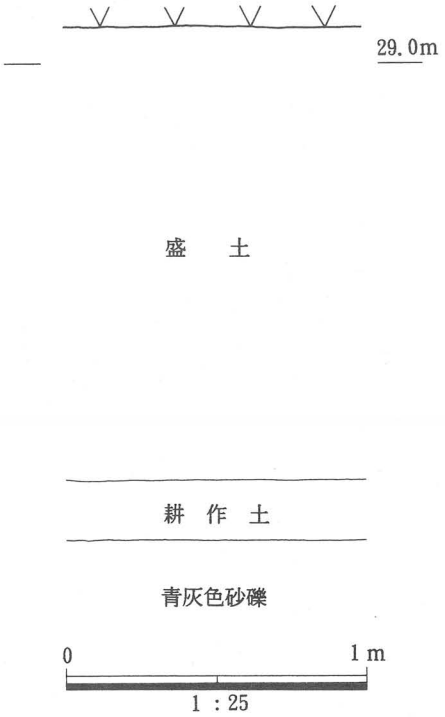


図38. 宮之川原遺跡（97－1地区）土層模式図

20. 宮之川原遺跡（97－2地区）の調査

調査地は高槻市宮之川原五丁目527－18の一部、527－19にあたり、小字名は「大明神」である。現状は宅地であり、97－1地区の南側に隣接している。今回、個人住宅建設工事に先立って発掘調査を実施した。

調査は届出地の中央に調査区を設定し、重機で盛土を除去したのち、人力で掘削・精査をおこなった。層序は盛土（1.3m）、耕作土（0.4m）、灰褐色砂礫土であり、遺構・遺物ともに検出されなかった。（川村）

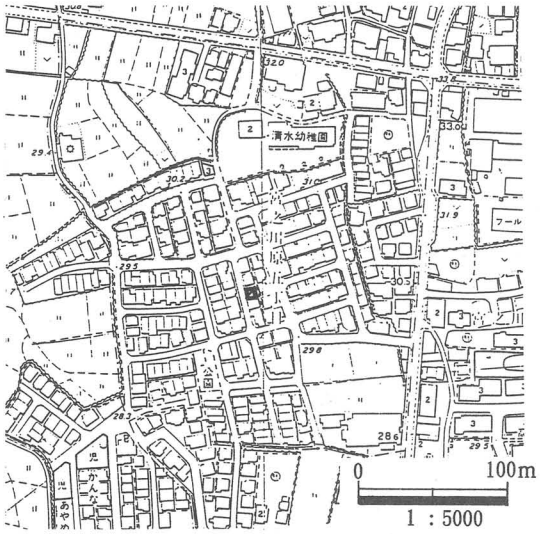


図39. 宮之川原遺跡（97－2地区）調査位置図

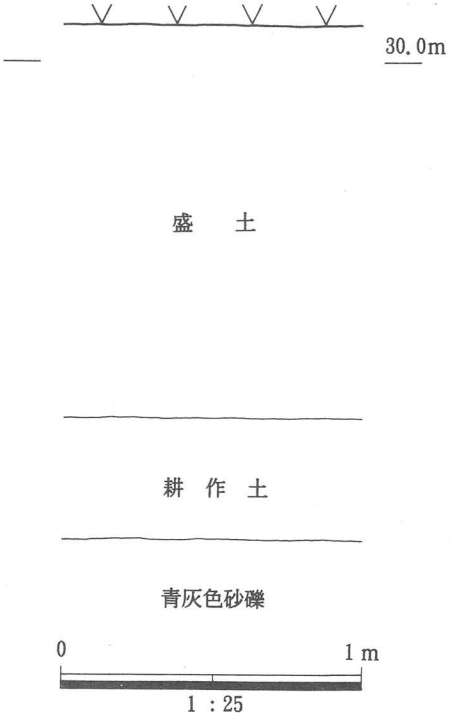


図40. 宮之川原遺跡（97－2地区）土層模式図

21. 宮之川原遺跡（97―３地区）の調査

調査地は宮之川原五丁目505―36にあたり、小字名は「大明神」である。現状は宅地で、今回、個人住宅建設工事に先立って発掘調査を実施した。

基本的な層序は、盛土（0.77m）、耕作土・床土（0.12m）、暗灰褐色粘質土（0.31m）、暗灰色砂礫混粘土（0.44m）で、灰色砂礫に達する。この灰色砂礫は非常に湧水が激しく、宮之川原遺跡一帯で検出される河川堆積とみられ、明確な地山面は確認できなかった。一方、暗灰色砂礫混粘土からは、土師器の小片が出土しているものの、土器自体がかなり磨滅しており、遺物包含層とするよりも河川による堆積層とみられる。これらのことから、周辺は河川による削平・堆積が激しく明確な遺構面は残っていないものと考えられる。（高橋）

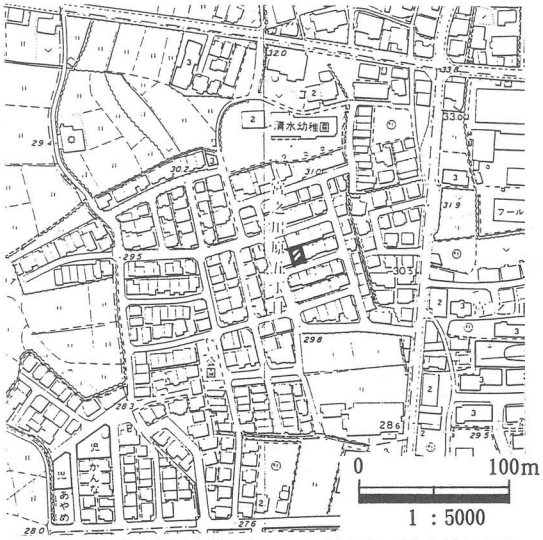


図41. 宮之川原遺跡（97－３地区）調査位置図

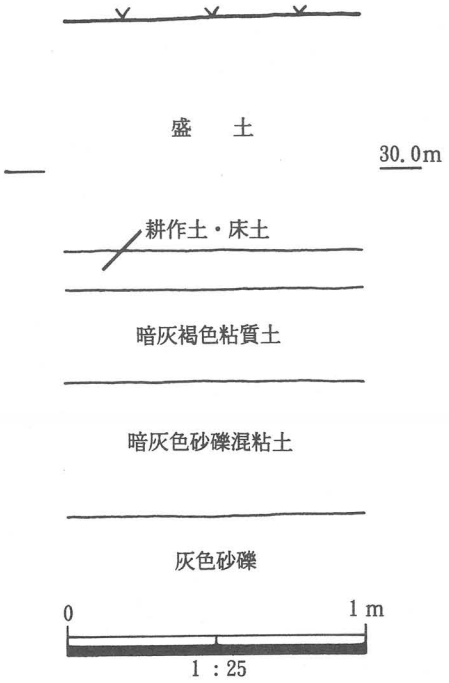


図42. 宮之川原遺跡（97－３地区）土層模式図

Ⅵ　芥川遺跡

22. 芥川遺跡（97―１地区）の調査

調査地は高槻市殿町70－１・２にあたり、小字名は「殿ノ内」、現状は宅地である。当該地の東側隣接地では鎌倉時代から室町時代にかけての柱穴や中国陶磁器などが検出されており、中世の芥川宿または芥川城との関連がかんがえられている。このたび個人住宅の建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。

調査は重機で盛土を除去し、層序の観察と遺構・遺物の確認作業を実施した。層序は盛土（0.2m）、灰色土（0.15m）、黄灰色粘土（0.1m）、灰色砂質土（0.3m）、大きな砂礫がまじる黄灰色砂と堆積している。黄灰色粘土が旧水田の床土、床土以下の堆積は調査地西側を流れる芥川の氾濫によるものとみられ、遺構・遺物は検出できなかった。

今回の調査では明確な遺構・遺物は検出できず、遺物包含層を確認することもできなかった。このため、中世の遺構はきわめて限定された範囲にしか広がっていないようである。

（橋本）

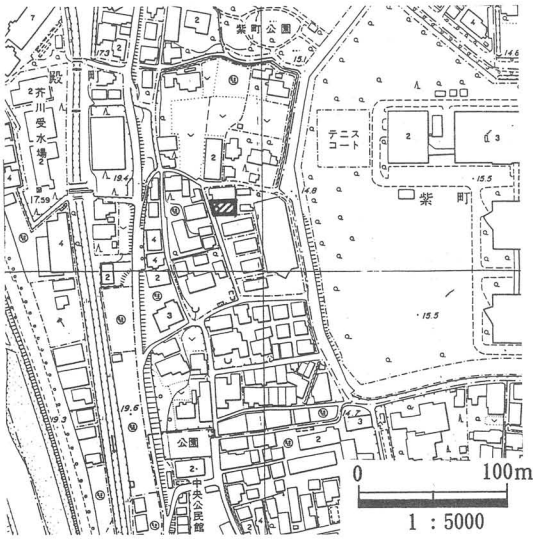


図43. 芥川遺跡（97－１地区）調査位置図

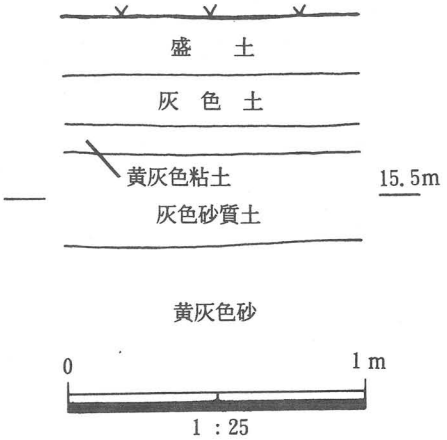


図44. 芥川遺跡（97－１地区）土層模式図

Ⅶ　大蔵司遺跡

23. 大蔵司遺跡（97－1地区）の調査

調査地は高槻市大蔵司三丁目295－2番地にあたり、小字名は「見立」、現状は宅地である。芥川上流域で継続して営まれた集落であり、当該地の南側では弥生時代後期から奈良・平安時代にかけての竪穴住居跡や掘立柱建物跡が検出されている。

このたび、個人住宅の建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。

調査は重機で盛土を除去し、層序の観察と遺構・遺物の確認作業を実施した。層序は盛土（1.2m）、耕作土（0.2m）、床土（0.1m）、黄灰色砂質土と堆積している。周辺での調査から黄灰色砂質土が地山とみられるが、遺構・遺物はまったく検出されなかった。

（橋本）

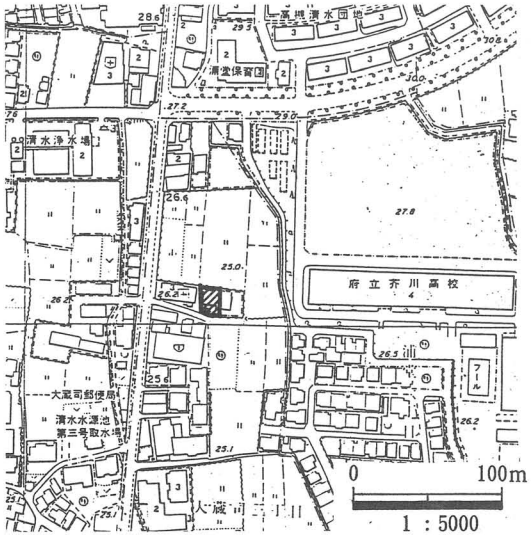


図45. 大蔵司遺跡（97－1地区）調査位置図

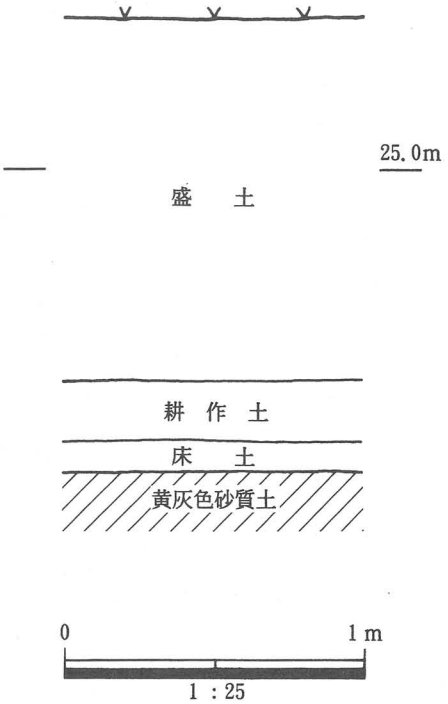


図46. 大蔵司遺跡（97－1地区）土層模式図

24. 大蔵司遺跡（97―2地区）の調査

調査地は高槻市大蔵司三丁目295―1、295―2の一部にあたり、小字名は「見立」、現状は宅地である。個人住宅の建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。

調査は重機で盛土を除去し、層序の観察と遺構・遺物の確認作業を実施した。層序は盛土（1.4m）、耕作土（0.2m）、床土（0.2m）、灰色粘土（砂質気味）と堆積している。隣接調査区の状況から灰色粘土が地山とみられるが、遺構・遺物はまったく検出されなかった。

（橋本）

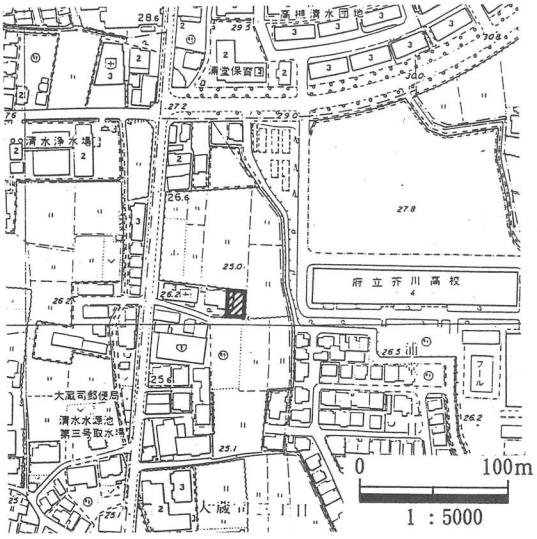


図47. 大蔵司遺跡（97－2地区）調査位置図

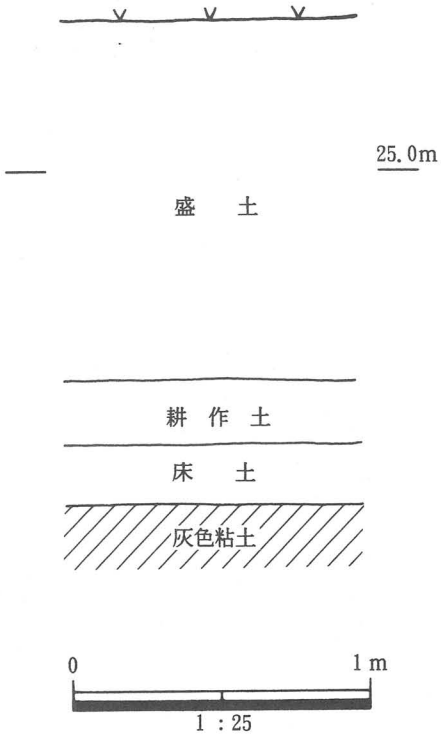


図48. 大蔵司遺跡（97－2地区）土層模式図

Ⅷ　高槻城跡

25. 高槻城跡（97―１地区）の調査

調査地は高槻市大手町1168―２・５・６にあたり、小字名は「椋樹」である。現状は宅地である。個人住宅建設工事に先立って発掘調査を実施した。当該地は元和年間以降、すなわち近世高槻城の外堀にあたり、城の北側中央のやや突出した部分に位置する。今回は堀の調査ということもあり、堀の北側の立ち上がりや埋土の堆積状況を確認することにつとめた。

調査は届出地の中央よりやや西側に調査区を設定し、重機で盛土を除去したのち、人力で掘削・精査をおこなった。層序は盛土（0.95m）、暗灰色粘質土（0.25m）、黒灰色粘質土（0.2m）、青灰色粘土（0.5m以上）である。最下層の青灰色粘土は均質な粘土層であり、さらに下位へ続くことが推測されることから、この層以下が堀の埋土と思われる。

なお、今回の調査では外堀の立ち上がり部分を検出することはできなかった。　（川村）

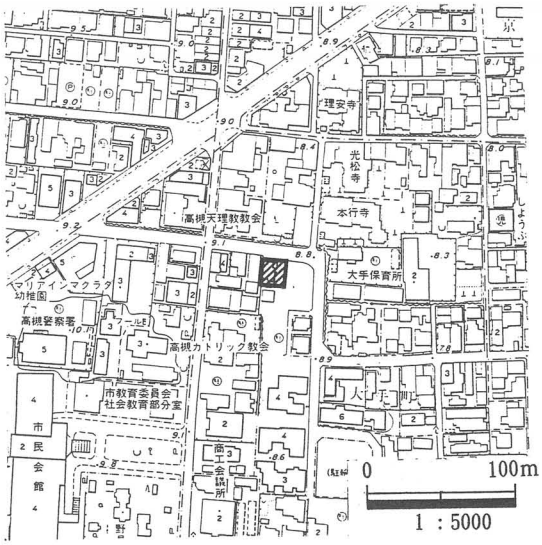


図49. 高槻城跡（97－１地区）調査位置図

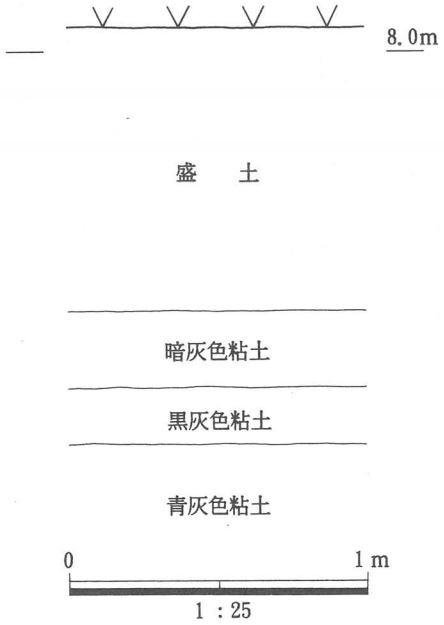


図50. 高槻城跡（97－１地区）土層模式図

26. 高槻城跡（97―2地区）の調査

調査地は高槻市出丸町1244―12にあたり、小字名は「粂路山」、現状は宅地である。高槻城跡西側の出丸と外濠の境目付近であるが、個人住宅の建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。

調査は重機で盛土を除去し、層序の観察と遺構・遺物の確認作業を実施した。層序は盛土（0.3m）、黄灰色や灰色のブロック土からなる埋土（1.0m）、青色粘土と堆積している。遺構・遺物はまったく検出されなかったが、青色粘土は外濠の堆積土とみられる。埋土は濠を埋め立てた際に投入したものとみられるが、遺物がなく時期を確定できない。　（橋本）

図51. 高槻城跡（97－2地区）調査位置図

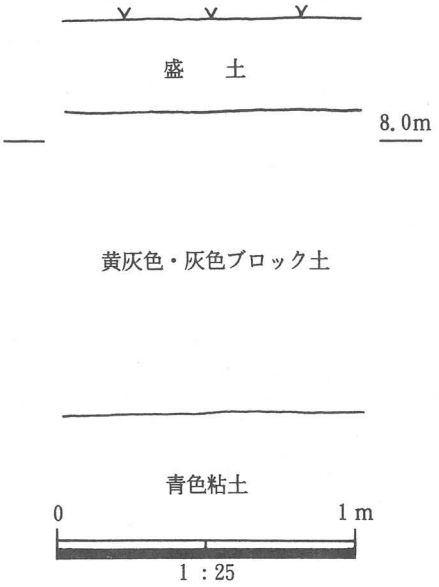


図52. 高槻城跡（97－2地区）土層模式図

27. 高槻城跡（97―3地区）の調査

調査地は高槻市出丸町992―1・3・6にあたり、小字名は「帯曲輪」と称する。今回の調査は個人住宅建設に先立つもので、重機により盛土、整地土等を除去したのち、人力で遺構・遺物の検出に努めた。

層序は表土・盛土（0.6m）、黄褐色土〔整地土〕（0.4m）、青灰色砂（0.6m）、暗灰色粘土である。埋土の状況から堀跡と考えられるが、遺物はまったく出土しなかった。

（宮崎）

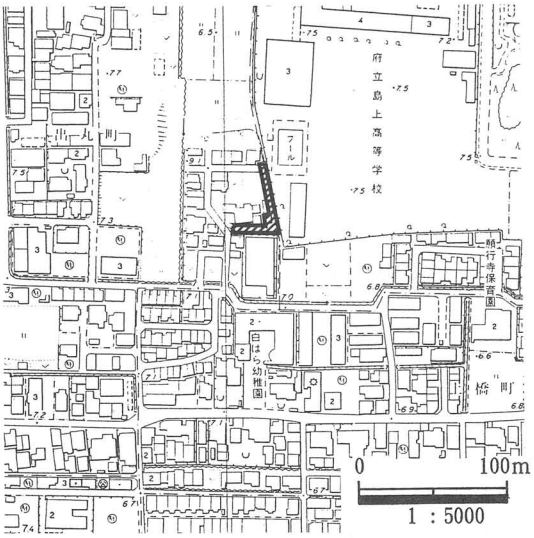


図53. 高槻城跡（97－3地区）調査位置図

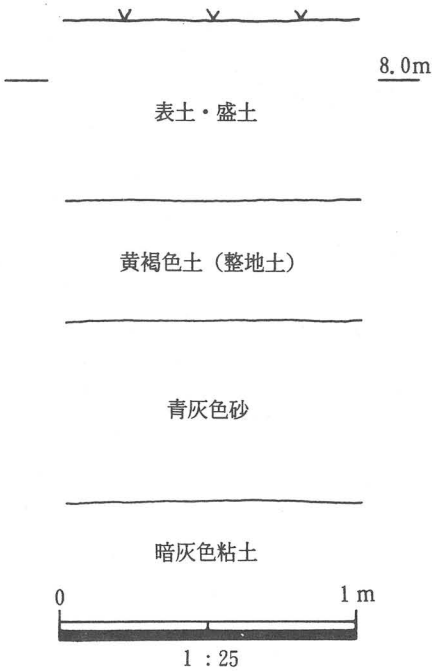


図54. 高槻城跡（97－3地区）土層模式図

Ⅸ　安満遺跡

28. 安満遺跡（97－1地区）の調査

調査地は高槻市高垣町271にあたり、小字名は「対馬」である。今回の調査は個人住宅建設に先立つものである。届出地内に東西2ヶ所の調査区を設定した。西側をA区、東側をB区とし、それぞれ重機により耕作土～整地土を除去したのち、人力で遺構・遺物の検出作業をおこなった。

図55. 安満遺跡（97－1地区）調査位置図

基本的な層序は耕作土・床土(0.2m)、明灰褐色土(0.1m)、灰褐色粘土(0.3m)、暗褐色土〔上層包含層〕(0.3～0.4m)、暗灰色粘土〔下層包含層〕(0.4m)、暗灰色礫土・緑灰色粘土〔地山〕である。

堆積状況をみると、弥生時代後期後半～古墳時代前期の遺物を含む下層包含層が弥生時代中期の遺構のうえに厚くひろがる。その上面にひろがる上層包含層からは奈良・平安時代の遺物が出土するものの、明確な遺構は少ない。この上層包含層と中世の地山である明褐色土とのあいだにはさまれた灰褐色粘土からもわずかに土師器片が出土する。また、この層を切って暗灰色砂礫が調査区東半部に広がるほか、部分的に砂層や礫・シルトなどが堆積することから、弥生時代以降に幾度となく洪水にみまわれたと解される。地山面の標高は8.7～8.5mをはかり、北西から南東へむかってゆるやかに傾斜している。

遺　構（図版第5～9・17、図56～59）

A・B各調査区からは弥生時代から中世の遺構を検出した。以下、時代ごとに概要を述べる。

〔弥生時代の遺構〕

A・B調査区から方形周溝墓を5基検出した。調査区全体にひろがっており、さらに調査区外へと続いている。これらはすべて盛土や主体部は遺存しておらず、周溝のみの検出である。

方形周溝墓1はA調査区中央部で検出した。南東および南西コーナーは調査区外に位置するものの、東西8.8m、南北6.4mをはかり、今回検出した方形周溝墓のなかではもっとも大きい。各辺で検出した周溝は幅1.2～2.0m、深さ0.4～0.5mをはかり、断面の形状は逆台形

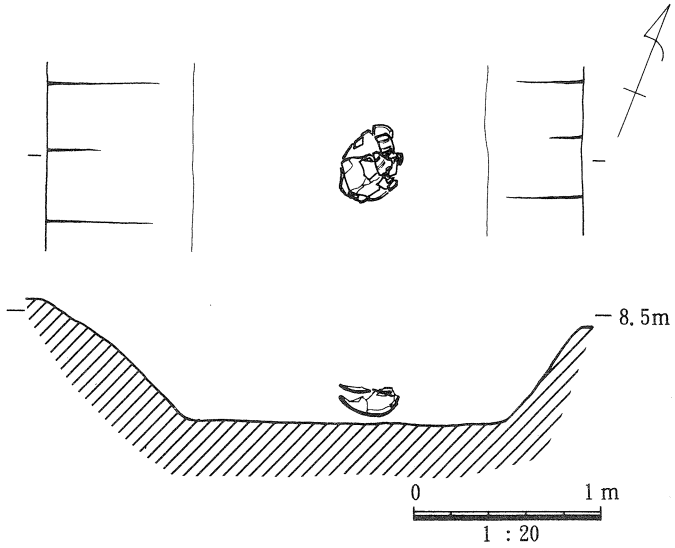


図56. 安満遺跡（97－1地区）　方形周溝墓2　土器3検出状況

をなす。底はほぼ平坦で、北東コーナー部分では深さ0.2m前後の陸橋状となっていた。溝内は暗灰色砂礫や暗緑灰色礫土がレンズ状に堆積し、北周溝ではほぼ埋没した後に方形周溝墓2南周溝が切っていた。遺物は少なく、西周溝の北西コーナー付近の埋土中位から前期の壺片が出土したのみである。

方形周溝墓2はA調査区北側で検出し、北東コーナーは調査区外に位置する。平面形が台形状となった小規模なもので、検出した各コーナーは陸橋状に掘り残していた。規模は東西4.6m、南北4.2～5.2mである。周溝は幅1.0～1.5m、深さ0.3～0.5mをはかり、西周溝がもっとも小規模である。埋土は暗灰色粘土や砂礫でレンズ状に堆積していた。出土した遺物には東周溝の南コーナー付近から無頸壺1点、北周溝中央部から広口壺1点があり、ともに底から遊離した状態で口縁部を外側にむけて倒れていた。時期は弥生中期前半である。

方形周溝墓3はA調査区北東隅に位置する。西周溝と南周溝の一部を検出したのみで、大部分は調査区外にひろがる。西周溝は検出長2.0m、深さ0.5mをはかり、断面は逆台形である。方形周溝墓2の東周溝を切る。南周溝は検出長5.8m、深さ0.5mをはかり、断面は逆台形である。埋土は暗緑灰色粘土と暗灰色砂礫でレンズ状に堆積していた。出土遺物はなかった。井戸1に切られる。

方形周溝墓4はA調査区西端にあり、東周溝の一部を検出したのみである。検出長は7.2m、幅1.0m以上、深さは0.2m以上である。出土遺物は弥生土器の小片1点のみで

ある。

方形周溝墓５はＢ調査区で西周溝と南周溝の一部を検出した。西溝は幅1.4m、深さ0.4mをはかり、断面の形状は逆台形である。埋土は上下２層に分かれ、上層が暗緑灰色粘土、下層が黒灰色粘土である。南周溝は検出長3.8m、深さ0.4mをはかる。南肩が調査区外に位置するために幅は不明である。この周溝墓の東側は古墳時代中期以降、12世紀以前の流路によって流失していた。遺物は出土しなかった。

〔古墳時代の遺構〕

古墳時代の遺構にはＡ調査区北東隅で検出した井戸１がある。掘形の平面形は円形をなし、

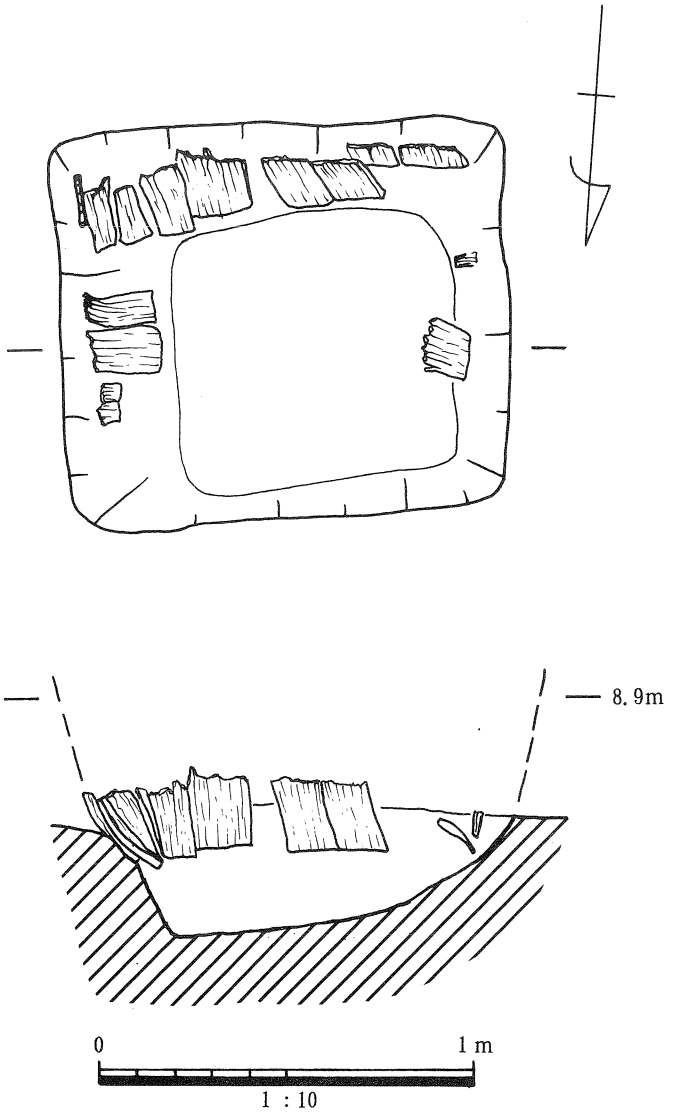


図57. 安満遺跡（97－１地区）　井戸２　平面図・断面図

直径2.7m、底径0.9m、深さ約1.5mをはかる。断面形は漏斗状となり、底は掘形の中心よりやや北に偏っている。枠は検出しなかった。埋土は上下二層に大別され、上層は緑灰色粘土、下層は暗灰色粘土である。遺物には庄内式土器などがあり、大半が下層から出土した。また、底から0.2mほど遊離した状態で完形の甕が出土した。

〔古代・中世の遺構〕

井戸2はA調査区北側で検出した。後世の攪乱のため遺存状態は良くない。掘形の平面形は方形をなし、東西0.6m、南北0.55mをはかる。現存する深さは約0.2mであるが、層序からすれば0.5〜0.6mに復原できよう。枠は一部のみ遺存していた。幅0.05〜0.1m、厚さ0.1m前後の薄板を縦にならべており、内法は0.45mをはかる。支柱や桟木は検出しなかった。底から土師器杯と斎串が2点ずつ出土した。

中世の遺構は耕土直下で検出した。このため、大部分が後世の攪乱・削平をうけていた。検出した遺構は土坑1基、溝1条、柱穴などである。

土坑1はA調査区北端で検出し、さらに調査区外へひろがっているために調査区を拡張し遺構全体の把握につとめた。平面形は主軸が東西方向にある隅丸長方形をなし、東西1.9m、南北0.9mをはかる。深さは約0.2mをはかり、東側はさらに0.1m掘り込まれてい

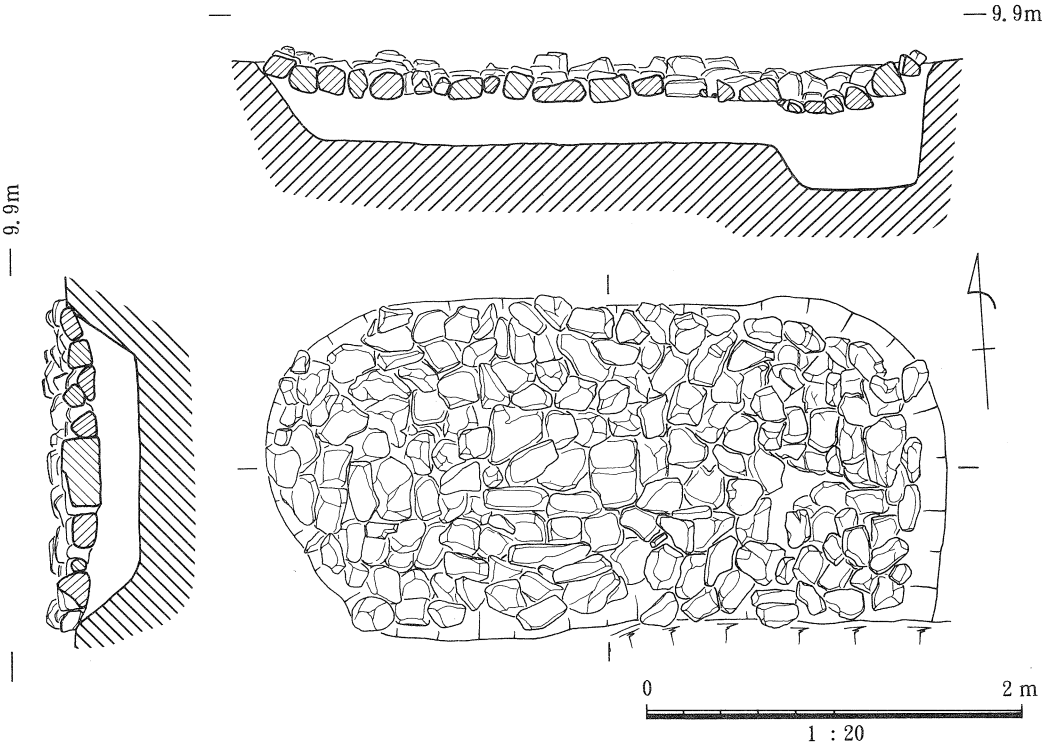


図58. 安満遺跡（97－1地区）　土坑1　平面図・断面図

た。底は平坦でほぼ水平となっている。壁面は東壁が直立する以外はすべて傾斜していた。埋土は底から0.1mが黄褐色土のブロックでその上面には拳大の円礫を隙間なく敷き並べていた。礫はチャートで構成され、すべて周辺で採取可能な石材である。また、黄褐色土と礫のあいだには薄い炭層がみられた。出土遺物には掘り込み部分から出土した12世紀頃の土師器がある。

土坑2は土坑1の北側に位置する。平面形は東西1.2m、南北1.4m以上の長方形をなし、南端からは幅0.4m、深さ0.2m、長さ約1.0mの南北溝がのびる。

土坑3は土坑1の0.7m北西で検出した。平面形は一辺1.1mの隅丸方形をなし、深さは0.4〜0.6mである。東よりの底には口縁部を上にした状態で8世紀後半頃の土師器甕を一点据えていた。土器以外に出土遺物はなかった。

溝1はA調査区東端を直線上にのびる南北溝で、両端は調査区外へと続く。検出長8mをはかり、幅1.3m、深さは0.5mである。断面の形状は逆台形をなし、埋土は暗灰色土で、12世紀中頃から後半頃を中心とした土師器、瓦器などがまとまって出土した。

溝2は土坑1の北側で検出した東西溝である。幅0.2m、深さ0.1mをはかり、断面の形状はU字形である。検出長は約3mをはかり、土坑2を切る。遺物は出土しなかった。

柱穴は両調査区で数個ずつ検出した。いずれも直径0.2m前後の円形をなし、深さは0.2〜

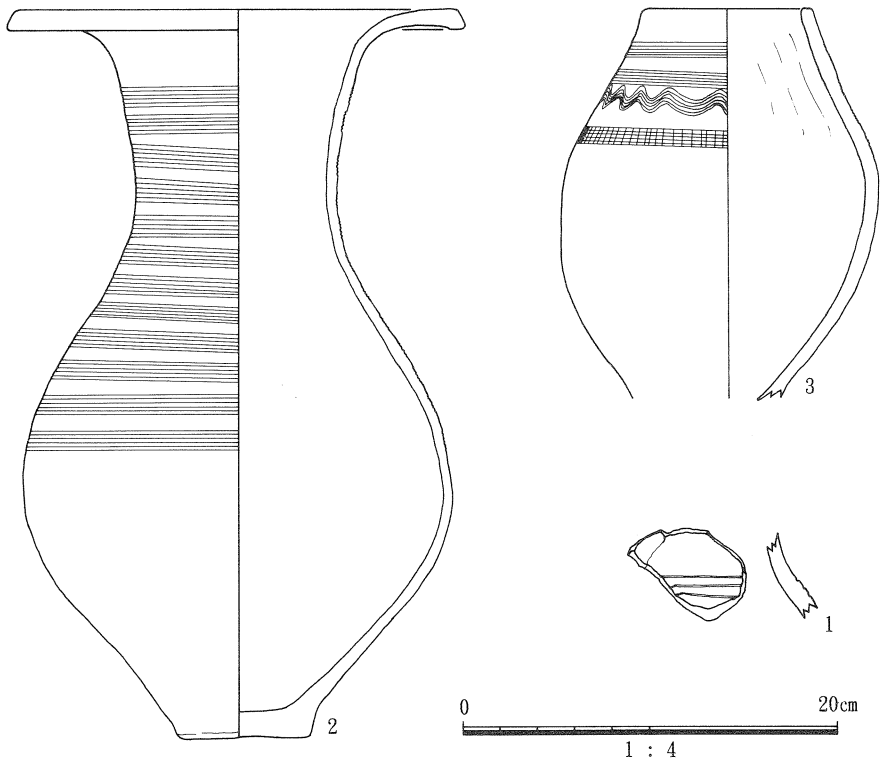


図59. 安満遺跡（97－1地区）　弥生土器　方形周溝墓1（1）　方形周溝墓2（2・3）

0.4mである。

遺　物（図版第10～14、図60～63）

各調査区からは弥生時代から中世の土器・木製品が出土し、大部分を中世の土器類が占める。以下、時代ごと、遺構ごとに概要を述べる。

弥生時代の遺物には方形周溝墓1出土の壷（1）、方形周溝墓2出土の広口壷（2）と無頸壷（3）がある。1は前期の広口壷体部とみられる小片で、3条の浅い沈線がかろうじて遺存していた。2は球形気味の体部にゆるやかに開く長い頸部のつく広口壷である。口縁部は屈曲気味に外反したのち水平にのびる。頸部から体部上半にかけては6条で一組となる直線文を12段施すが、口縁端部には施文されない。色調は淡褐色～灰褐色を呈し、口径20.5cm、器高39.0cmをはかる。中期前半である。3は球形気味の体部をもつ無頸壷で、体部径に比べて口径がやや小さい感がある。体部上半には上から二段の直線文、櫛描波状文、簾状文と施されていた。底部を欠き、現存高20.9cm、口径8.7cm、最大径16.8cmをはかる。

古墳時代の遺物には井戸1および下層包含層出土の土師器などがある。井戸1からは庄内式併行期の土師器甕（4～9）、高杯（10・11）が出土した。甕のうち、底付近から出土した4はやや縦長球形の体部に外反ぎみにのびる口縁部がつき、端部は丸みをもつ。底はかろうじて平端面を保つ程度である。調整は体部外面がタテハケ、内面はナデである。肩部以下は全体に煤が付着していた。口径14.9cm、器高23.8cmをはかる。5はやや縦長となった球形の体部に、外傾し端部の丸い口縁部が付く。底はかろうじて平底を保ち、体部全体にやや目が粗い原体のタタキがほどこされる。内面はなでており、口縁部のヨコナデは肩部まで及ぶ。口径15.2cm、器高20.1cmをはかり、色調は茶灰色である。6は球形の体部から屈曲して開く口縁部がつき、端部は面をもつ。体部外面はタテハケ、内面はヘラケズリをほどこし、口縁部のヨコナデは肩まで及ぶ。口径16.8cm、器高19.0cmをはかり、色調は淡灰褐色である。全体が煤に被われていた。7は底部を欠くものの球形の体部をもち、口縁部は外反ぎみに斜め上方へのびる。体部外面と内面の上半をハケ調整し、底付近には指圧痕も看取される。ヨコナデは肩までおよんでいる。8は球形の体部をタタキ成形後タテハケで調整する。9は上半部のみ出土した。体部外面はタテハケ、内面はヘラケズリで調整し、口縁端部は上方へはね上げる。胎土に比較的細粒の角閃石を含む搬入品である。高杯は2点出土した。10は椀型の高杯で、深手の杯部は外面と内面下半部にヘラミガキをほどこす。おおきく開く脚は一部しか遺存しないものの、4方向の円形透孔が穿たれる。11はわずかに段をもち、外方へ大きく開く杯部に中実の柱状部と裾が屈曲して開く脚がつく。透孔は円形で4方向に穿つ。口径20.7cm、器高14.4cmをはかる。形態は弥生土器の延長上にあり、これと同型式の高杯（12）が下層包含層から出土している。このほか、井戸1の底付近からは桃の種子が十数点出土し

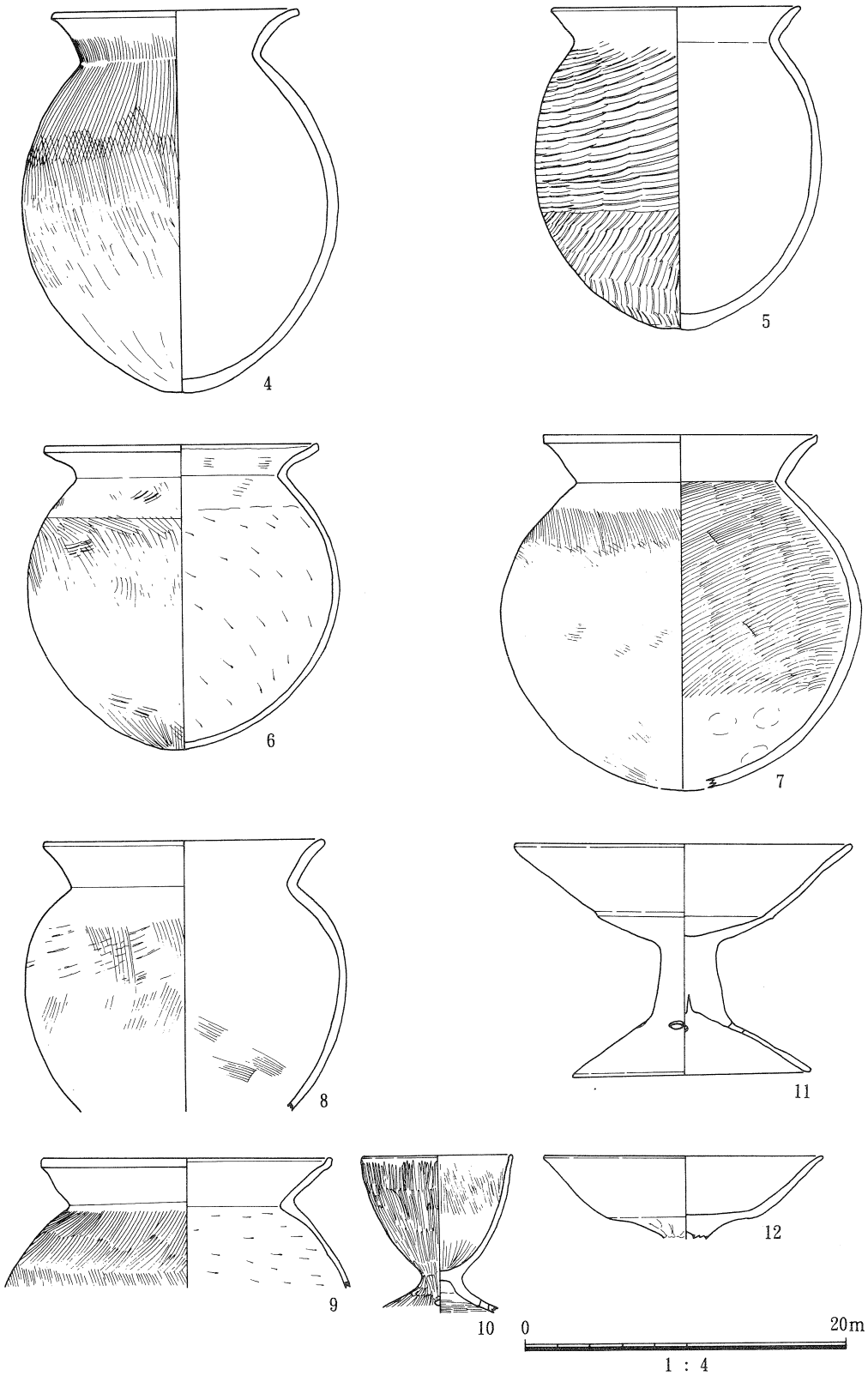


図60. 安満遺跡（97－1地区）　土師器　井戸1（4～11）　下層包含層（12）

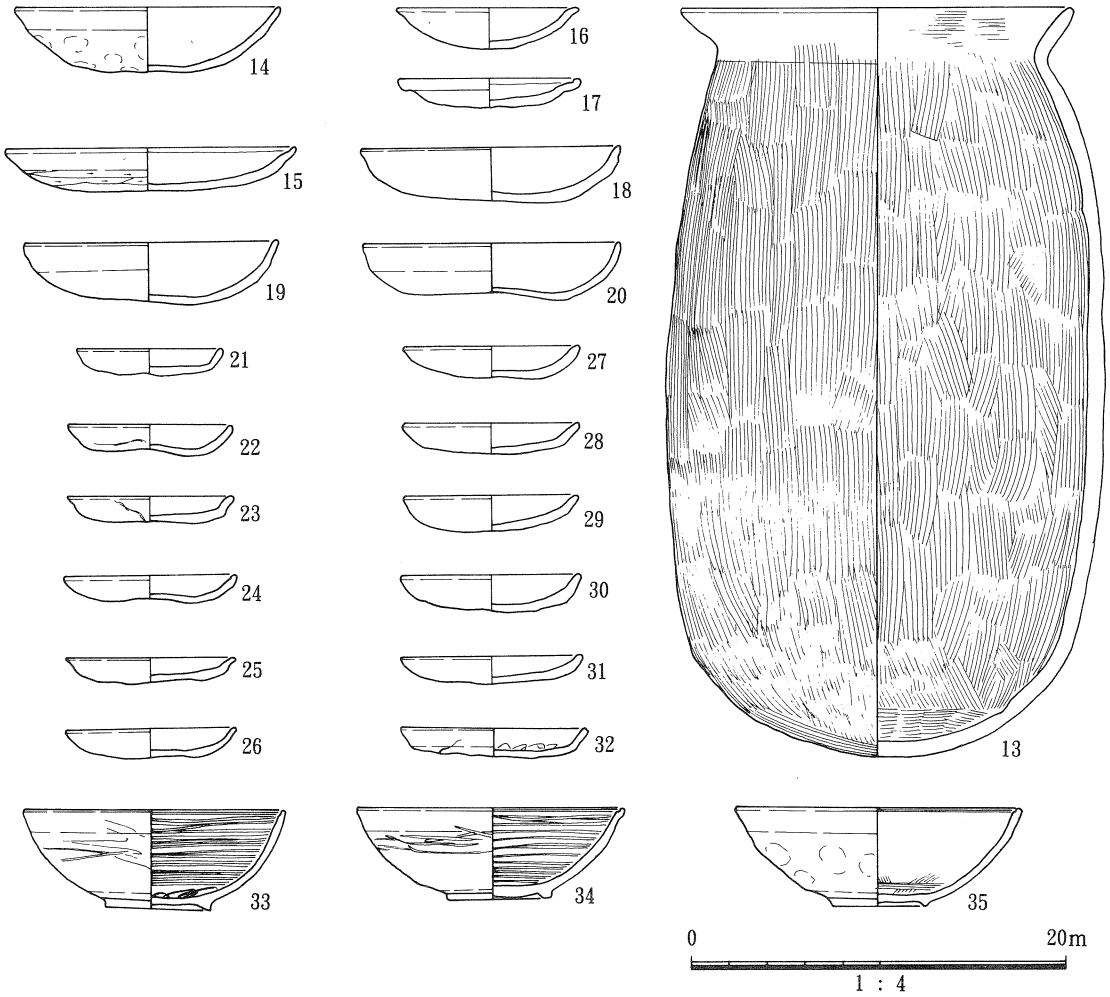


図61. 安満遺跡（97－1地区）　土師器・瓦器　井戸1（14・15）、土坑1（16）、土坑2（17）、土坑3（13）、溝1（18～35）

た。

奈良時代以降の遺物は井戸2、土坑1・2、溝1などから出土した土師器や瓦器類と木製品である。土坑2から出土した甕（13）は扁平ぎみの底部に中央がやや膨らんだ長い胴がつく。頸部から屈曲してななめ上方へのびる口縁部は端部がまるくおわる。調整は内外面ともにタテハケで、口縁部は内面のみヨコハケ後に肩までヨコナデをほどこす。形態から8世紀後半頃とかんがえられる。口径20.6cm、器高40.1cmをはかる。井戸2出土の土師器杯（14）は扁平な底部から屈曲ぎみにたちあがる口縁部がつく。口縁端部は丸く、内面が肥厚する。外面はヘラケズリ、内面及び口縁部はヨコナデで調整する。口径15.2cm、器高2.3cmをはかる。形態や調整手法から9世紀中頃と考えられる。15は底部から口縁部にかけてゆるやかに移行する深手の杯である。体部外面には指圧痕をとどめる。口径14.0cm、器高3.5cmをはかる。9世紀中頃から後半頃であろう。

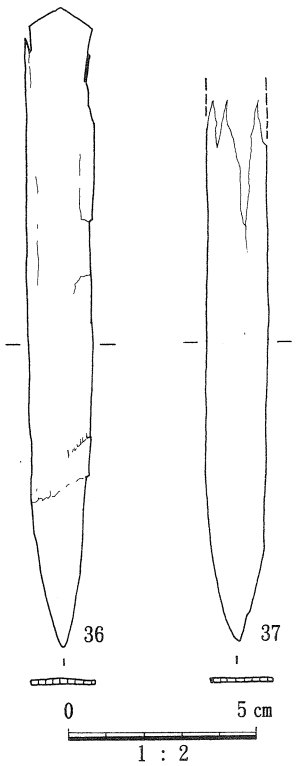


図62. 安満遺跡（97－1地区）
木製品　井戸2（36・37）

土坑1から出土した土師器皿(16）は口径9.5cm、器高2.3cmをはかる小形品である。17の口縁部は「て」字状となり、やや古い様相をとどめる。口径9.4cm、器高1.5cmをはかる。

溝1からは土師器・瓦器が出土した。土師器は杯と皿がある。杯は18～20の3点ある。いずれも底部から口縁部にかけて内湾しながらゆるやかに移行するもので、口縁端部は丸い。口径13.3～13.8cm、器高3.0～3.4cmをはかる。皿（21～31）はいずれも小形品で、なだらかな凹凸をもつ底部からゆるやかに口縁部へと移行し、端部は丸い。口径7.6cm～9.4cm、器高1.3～2.0cmをはかり、色調はいずれも淡灰褐色である。22・23は粘土の接合痕をとどめていた。瓦器には皿（32）と椀（33～35）がある。皿（32）は底部からゆるやかに移行する口縁部が斜め上方にのびるもので、底部内面には暗文をほどこす。外面には成形時の粘土接合痕をとどめている。椀（33）は断面逆台形の高台をもつ。外面には粗い暗文、内面には比較的密に暗文をほどこす。底の螺旋文はやや粗雑である。口径14.8cm、器高5.3cmをはかる。34の高台は前者に比してやや低い。暗文は内外面とも簡略化が進み、粗雑な感がある。口径14.2cm、器高は4.9cmである。35には暗文はなく、外面には指圧痕が顕著となる。底部内面はハケ調整をほどこす。口径15.0cm、器高5.3cmをはかる。

木製品には井戸2から出土した2点の斎串（36・37）がある。36は薄板の両端をとがらせたもので、全長16.9cm、幅1.9cm、厚さ0.15cmをはかる。37は36と同様の形状とみられるものの、上半部が折損しており劣化が著しい。現存長は14.4cm、幅1.7cm、厚さ0.1mをはかる。

小　結

今回の調査では弥生時代から中世にかけての遺構・遺物を検出した。5基の方形周溝墓はいずれも地形に沿ってあり、切り合いから方形周溝墓1→2→3の順に築かれたことが判明している。時期は方形周溝墓2より出土した弥生土器から中期前半と判断される。これらの周溝墓はいずれも盛土が削平のために遺存していなかった。検出面の直上は弥生後期から庄内期にかけての遺物を含む粘土層や砂層におおわれていることから、この時期にはすでに洪

水による流出や居住地・水田等の開発による削平をうけていたと考えられる。

古墳時代の遺構は今回は井戸１基しか検出しなかったものの、北側に隣接する９地区においても庄内期の井戸を検出していることからすれば調査区周辺には当該期の集落が展開することは確実である。ただ、地山の状況が不安定なことと、直上の層では５世紀代の遺物を含むことから、遺構面がすでに削平されている可能性もかんがえられよう。

奈良時代以降には遺構が散在する状況となっているが、12世紀頃を中心にかなりまとまった集落が展開するようである。今回検出した溝１は直線的にのびることや埋土の状況からすれば水路などではなく、区画溝として機能したことがかんがえられる。位置的には条里などとの関連性は薄いとみられるが、周囲に屋敷地がひろがっていたのであろう。このほか、調査区の東半部では北西から南東方向にむかってのびる砂層検出している。この砂層は方形周溝墓５を切っていた。これと一連のものとみられるものは北の９地区と東の98―２地区でも確認されており、これらの調査結果から平安期以降12世紀後半までのあいだに発生した洪水層であることが今回あらたに判明した。　（宮崎）

29. 安満遺跡（97―２地区）の調査

調査地は高槻市高垣町263―１にあたり、97―１地区の東側に隣接する。小字名は「対馬」である。今回の調査は個人住宅建設に先立って実施したもので、盛土・整地土を重機で除去したのち、遺構・遺物の検出作業をおこなった。

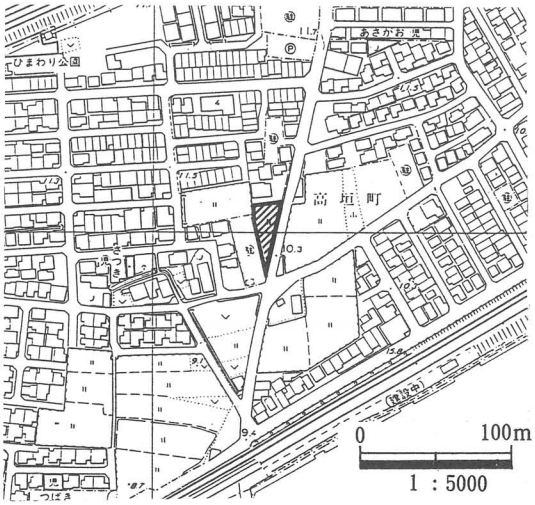


図63. 安満遺跡（97－２地区）調査位置図

層序は耕作土・床土(0.3m）、灰褐色土〔包含層〕(0.01～0.3m）、黄灰褐色土～暗灰色礫土である。遺構検出面の標高は9.5m～9.6mをはかり、北西から南東へむかってゆるやかに傾斜している。

遺　構（図版第15～16a、図64・65）

検出した遺構は中世の井戸１基と溝１条、土坑１基である。井戸１は調査区南東隅に位置し、土坑１を切っていた。掘形の平面形は円形をなし、埋土は灰褐色土一層である。検出面での直径は2.6m、底径1.4m、深さ0.9mをはかる。底では中央よりやや北寄りで直径0.4m、深さ0.2mの掘り下げがみられ、その上面に曲物を据えていた。底からは完形の瓦器椀１点が伏せた状態で出土した。井戸枠は現存しないものの、曲物の上面西側には一辺0.1～0.2

mをはかる数個の亜角礫が遺存し、西および南側の掘形法面には直径0.05mの杭が打ち込まれていた。掘形内からは12世紀後半から13世紀にかけての土師器、瓦器等が出土した。

溝１は調査区南西隅に位置する南北溝である。幅1.0m、深さ0.3mをはかり、断面の形状は逆台形である。検出長は3.0mで、南北両端は調査区外へと続く。埋土は灰褐色土で、遺物は出土しなかった。

土坑１は調査区南東隅で検出した。大部分が調査区外にあり、北側は井戸１が切るために平面形は明確ではない。東西1.2m以上、南北1.9m以上をはかり、平面形は長円形もしくは隅丸方形とかんがえられる。深さは0.5～0.6mをはかる。底は鍋底状を呈しており、埋土は暗灰色土である。遺物は出土しなかった。検出位置や形状などからすれば、あるいは井戸の

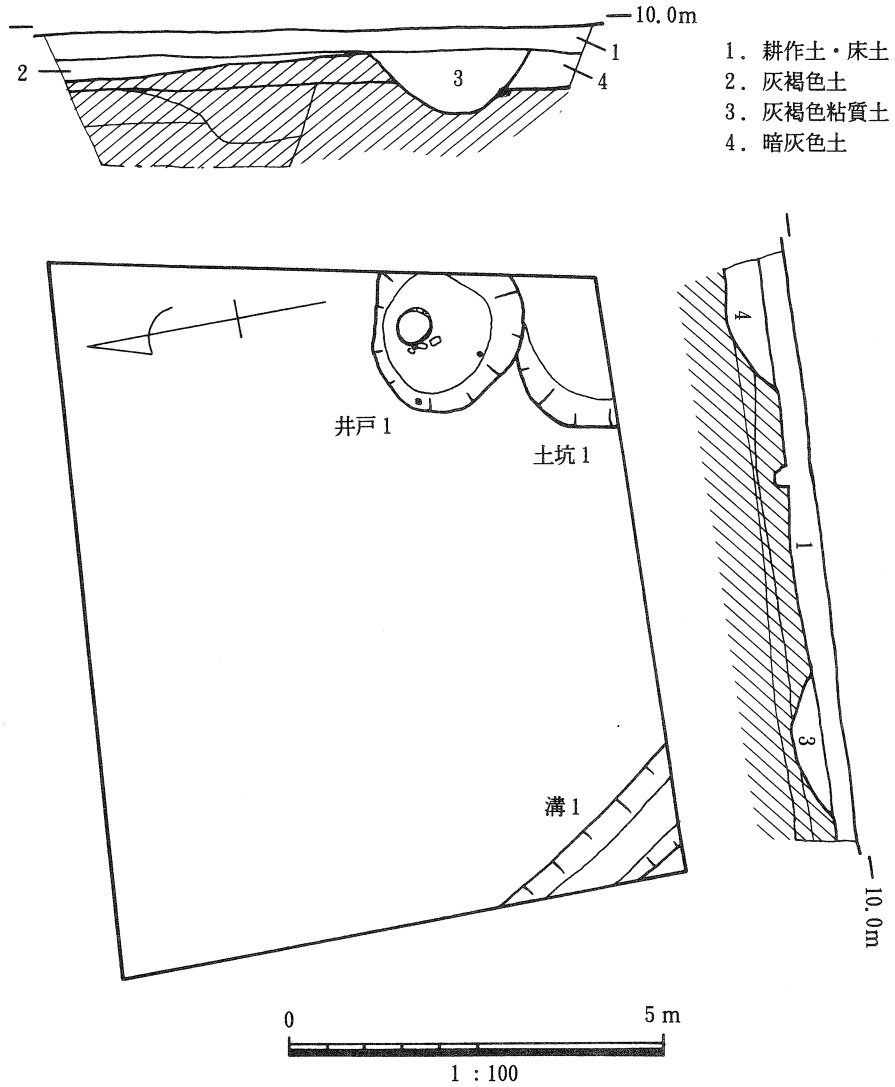


図64. 安満遺跡（97－２地区）平面図・土層図

掘形かもしれない。埋土中から12世紀後半から13世紀にかけての瓦器椀が出土した。

中世遺構面の下層に弥生時代の遺構面がひろがっていることが予測されるため、調査区北半部にトレンチを設定し、遺構・遺物の検出につとめた。中世以降面の約１ｍ下方で97―１地区で検出した弥生時代の地山である緑灰色粘土層を確認したものの、遺構・遺物はまったく検出することができなかった。

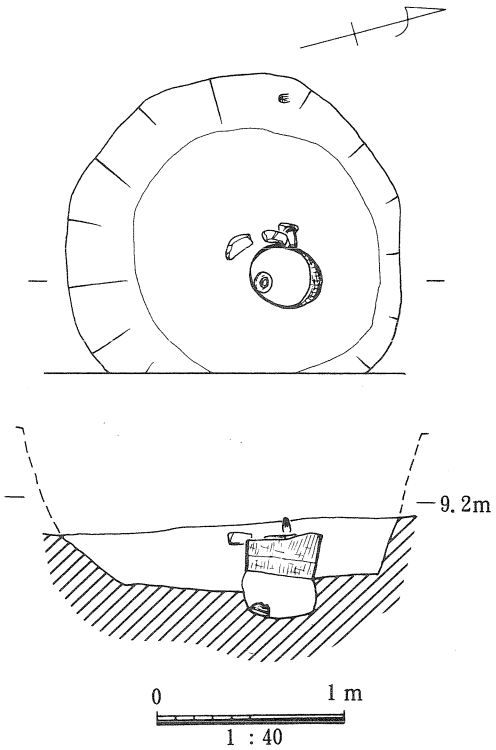


図65. 安満遺跡（97－２地区）
井戸１　平面図・断面図

遺　物（図版第17ｂ、図66）

遺物は少なく、12世紀後半から13世紀にかけての土師器や瓦器などが出土した程度である。

井戸１からは土師器と瓦器が出土した。土師器には皿（１・２）がある。１は扁平な底部から屈曲気味に内湾する口縁部がつく。口径7.9cm、器高1.2cmをはかる。２は湾曲ぎみの底部から口縁部へゆるやかに移行し、端部は丸くおさめている。調整は口縁部がヨコナデ、内面をナデ、外面は成形時の指圧痕をとどめる。口径8.0cm、器高1.4cmをはかる。色調は淡灰褐色である。

瓦器には皿（３）、椀（４）がある。３は掘形から出土したもので、底部から屈曲してたちあがる口縁部がつき、端部は丸い。内面と口縁部の調整はヨコナデで、底部内面には粗い暗文をほどこす。底部外面は未調整で、粘土を折り曲げた接合痕や中央から放射状にのびる指圧痕などの成形痕を明瞭にとどめていた。口径8.9cm、器高1.6cmをはかる完形品で、色調は黒灰色である。４は楠葉型の椀である。断面が不整形な逆台形を呈した高台の付く底部に湾曲しながらのびる体部がつく。口縁部は丸く、内面には１条の沈線がめぐる。調整は、口縁部がヨコナデ、内面はナデ調整後に粗い暗文をほどこす。外面は成形時の指圧痕が顕著である。口径14.4cm、器高5.1cmをはかる。色調は黒灰色である。

土坑１から出土した瓦器椀（５）は、断面三角形の低い高台がつくもので、体部はゆるやかに内湾しやや厚手である。口縁端部は丸く、内側には一条の沈線がめぐる。体部外面には暗文はなく、内面の暗文は粗い。口径13.1cm、器高4.4cmをはかる。

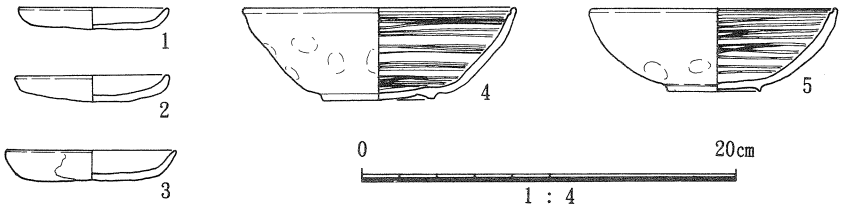


図66. 安満遺跡（97－2地区）　井戸1（1～4）　土坑1（5）

小　結

今回の調査地では、中世の井戸1基と溝1条などを検出した。中世の集落は遺跡の東半部に展開していることがこれまでの調査であきらかにされている。南および東側では同時期の集落を調査しており、集落が本調査区まで及ぶことが判明した。井戸1は廃絶時に井戸枠が破棄されていたものの、かろうじて遺存していた曲物や杭、礫などから集水桝としていた曲物の周囲を礫で囲んでいたとかんがえられる。井戸枠は2本の杭の位置関係から方形組とみられるものの、杭自体は先付けした自然木をそのまま打ち込んだ単純なものであることから、その構造は簡便なものであろう。溝1は出土遺物がなく、明確な時期は決しがたいものの、井戸1と同じレベルで検出したことからすれば同時期とみて差し支えない。規模や埋土の状況からすれば、水路ではなく区画溝であったとかんがえられよう。

弥生時代の遺構は今回の調査では検出しなかった。97―1地区の調査では弥生時代中期の方形周溝墓群を検出したものの、この南東側に接する本調査区まで及んでいないことが判明したことは、当時の墓域を知るうえで重要である。　（宮崎）

X　今城塚古墳規模確認調査

今城塚古墳は6世紀前半に築造された二重の濠を有する巨大な前方後円墳であり、昭和33年2月に史跡指定を受けている。

今回、平成9年度国庫補助事業（総額3,000,000円）として今城塚古墳の規模確認調査を実施した。調査は保存整備に必要な古墳各部のデータを得るため、平成8年度に実施した墳丘測量図をもとにおこなった。今年度は後円部側の内濠の幅、深さ等の形状把握と墳丘・内堤それぞれの基礎部の状況把握と内濠埋土の観察をおもな目的として実施したもので、後円部北東側にトレンチを設定した。基本的な層序は耕作土(0.2m）、埋積土(1.3m）、堆積土(1.0m)である。

調査の結果

今回の調査では古墳の規模や形状、戦国期の改変の状況があきらかになった。

内濠は底の幅が20m、深さは地表面より2.5mをはかり、裾まわりで人頭大の石を用いた葺石を確認した。内堤側の一部と墳丘側ではすでに崩落し、原位置をとどめていなかった。

内濠中央付近の底では幅0.5m、深さ0.3mの溝を検出した。埋土を観察すると、墳丘流出土の上に堆積土が存在することから、古墳築造時の排水溝と考えられる。

3層に分かれる堆積土からは円筒埴輪片が出土したほか、下層からはナスビ形鍬、上層からは淡青灰色の凝灰岩や二上山産および阿蘇産の凝灰岩を検出した。また、上層最上位からは12～13世紀頃の瓦器椀が出土した。

城砦にかかわるものとしては、内堤斜面と埋積土を切って掘削した幅5mの障子堀がある。底に幅0.7～2.0m、長さ1.9～2.4mの掘り込みを二重に配列し、各掘り込み間の障壁は0.5～0.7mをはかる。内濠では0.1m×0.4m前後の土塊を積み上げた1辺2～3mのブロックを墳丘側から内堤側にむかって一気に落とし込んで埋めていた。逆に墳丘裾はブロックを積み上げて比高約2mの段差としていた。

小　結

今回の調査では内濠の幅や深さを、さらには後円部側と内堤側での内濠のたちあがり部を確認したことによって後円部北東側での墳丘裾の位置が確定したため、後円部径が7～10mほど縮小することが判明した。

また、城砦築造にともなう古墳の改変の状況を知ることができた。今城塚古墳はまるで大型石材の運搬をおこなうように墳丘の盛土を切り出し、一気に内濠を埋めたてるという大規模かつユニークな土木工法をおこなっていたことがあきらかになった。　（宮崎）

XI　まとめ

今年度は嶋上郡衙跡で11件、その他周辺の８遺跡で18件、合計29件の調査を実施した。

嶋上郡衙跡の調査では史跡指定地東側の27―Ｋ地区において奈良・平安時代とみられる柱穴を検出した。一帯は遺物包含層が厚く堆積することが知られていたが、小規模な調査が多いために明確な遺構は確認できなかった。今回検出した遺構は建物としてはまとまらなかったものの、周囲に掘立柱建物が存在する可能性が認められることから、今後周辺部の調査にあたっては注意を要するであろう。また、当該地のさらに東側に位置する28地区でもさまざまな時期の遺物が出土している。この周辺は弥生時代から古墳時代にかけての遺構・遺物が分布するものの、その密度は一定ではない。芥川に近いうえ、地山面にも高低差がみられることから、遺構の掌握には微地形にも注意を払う必要があろう。

山陽道を踏襲したとされる西国街道に面した57―Ｇ地区では山陽道に関連する遺構・遺物の検出が期待されたものの、溝や土坑以外には明確な遺構は検出されなかった。古代山陽道は当該地のすぐ北側を東西にのびることが、過去に実施した調査等によって推定できるようになってきた。そして大規模な道路補修のたびにわずかながらその位置が南北に移動することが判明している。57―Ｇ地区で側溝等を確認できなかったことにより、古代山陽道の位置をより限定できるようになったといえる。また、道路の南側にも安定した地山がひろがり、遺構が展開することが判明したことはあらたな成果といえよう。

宮田遺跡は縄文時代から中世にかけての集落遺跡であり、とくに中世集落の研究には欠くことのできない代表的な集落である。遺跡の時代的な遺構・遺物の分布をみると、中世の集落や奈良・平安期の土壙墓群などは遺跡の北部を中心に分布し、縄文・弥生時代は南側に偏る傾向がみられる。今回調査をおこなった98―１・２地区は遺跡の南寄りに位置することから比較的古い時代の遺構・遺物の検出が期待されたものの、時期不明の不定形土坑を検出したのみであった。しかしながら、周囲の地山が比較的安定した状態にあることや包含層を確認したことから、周辺には何らかの遺構がひろがっている可能性が高まった。

中城遺跡は富田台地上に広がる弥生時代～中世の遺跡として知られるがその実体はあまり明確ではない。近年では60種、約6,000枚の埋納銭を検出し、遺跡の分布や内容をかんがえるうえできわめて有効な資料となっている。今年度は明確な遺構・遺物などを確認するには至らなかったものの、周辺には富田遺跡、総持寺遺跡などの大規模な集落が点在することから、地域の歴史解明にむけても中城遺跡の占める位置はますます重要となろう。

高槻城跡で実施した３件の調査ではいずれも堀跡を検出した。遺構規模の大きさからすれば限定的な調査となっているが、近世高槻城の堀は地割りや道路の位置関係などからおおま

かな位置は判明しているものの、堀の幅や深さ、形状など発掘調査を実施しないと解明できない点も数多い。近世城郭の解明にむけては小規模な調査の蓄積もますます重要となってくるであろう。

安満遺跡では弥生時代の方形周溝墓を検出した。調査区一帯は弥生時代中期の墓域となっており、昭和47年に実施した９地区の調査では中期前半の方形周溝墓を16基検出している。ここでは方形周溝墓が２群に分かれ、ともに南西から北東へむかって築かれていったことが判明している。今回調査を実施した97―１地区は９地区の南に接する位置にあり、検出した６基の方形周溝墓も南西から北東方向に築かれていた。これらは新たな一群としてとらえることができ、一帯には少なくとも３群の方形周溝墓がまとまりをもって築かれたことが判明した。一方、東側に隣接する97―２地区では方形周溝墓をはじめ弥生時代の遺構・遺物をまったく検出しなかったことから、墓域が当地区まで及ばないことが確認でき、今回の調査は安満遺跡の墓域をかんがえるうえで良好な資料を得ることができたといえる。　（宮崎）

抄　　録

フリガナ	シマガミイセキグン
書名	嶋上遺跡群
副書名	
巻次	22
シリーズ名	高槻市文化財調査概要
シリーズ番号	24
編集者名	橋本久和　鐘ヶ江一朗　宮崎康雄　高橋公一　木曽　広　川村雪絵
編集機関	高槻市立埋蔵文化財調査センター
所在地	大阪府高槻市南平台五丁目21－1
発行年月日	1998年3月

フリガナ 所収遺跡名	ｼﾏｶﾞﾐｲｾｷｸﾞﾝｶﾞ 嶋上郡衙　4－J・K地区
フリガナ 所在地	ｵｵｻｶﾌ ﾀｶﾂｷｼ ｸﾞﾝｶﾞﾎﾝﾏﾁ 大阪府高槻市郡家本町936

コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 51′ 06″	136° 36′ 13″	19970421	10.0 ㎡	個人住宅 建設工事
27207	39					

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
嶋上郡衙	官衙	奈良・平安		土師器、須恵器	

フリガナ 所収遺跡名	ｼﾏｶﾞﾐｲｾｷｸﾞﾝｶﾞ 嶋上郡衙　7－C地区
フリガナ 所在地	ｵｵｻｶﾌ ﾀｶﾂｷｼ ｾｲﾌｸｼﾞﾁｮｳ 大阪府高槻市清福寺町781－1・4、788－1

コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 51′ 07″	135° 36′ 25″	19971104 ～ 19971110	8.0 ㎡	個人住宅 建設工事
27207	39					

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
嶋上郡衙	官衙	奈良・平安			

フリガナ 所収遺跡名	ｼﾏｶﾞﾐｲｾｷｸﾞﾝｶﾞ 嶋上郡衙　7－D地区
フリガナ 所在地	ｵｵｻｶﾌ ﾀｶﾂｷｼ ｾｲﾌｸｼﾞﾁｮｳ 大阪府高槻市清福寺町781－2

コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 51′ 07″	135° 36′ 26″	19971111 ～ 19971119	5.0 ㎡	個人住宅 建設工事
27207	39					

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
嶋上郡衙	官衙	奈良・平安			

フリガナ 所収遺跡名	シマガミグンガ 嶋上郡衙　27－K地区
フリガナ 所　在　地	オオサカフ タカツキシ セイフクジチョウ 大阪府高槻市清福寺町851－5

コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50′ 59″	135° 36′ 26″	19970610 ～ 19970613	10.0 ㎡	個人住宅 建設工事
27207	39					

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
嶋上郡衙	官衙	奈良・平安	柱穴、土坑	土師器、須恵器	

フリガナ 所収遺跡名	シマガミグンガ 嶋上郡衙　28－O地区
フリガナ 所　在　地	オオサカフ タカツキシ セイフクジチョウ 大阪府高槻市清福寺町836－3・4

コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50′ 57″	135° 36′ 29″	19971020 ～ 19971031	33.0 ㎡	個人住宅 建設工事
27207	39					

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
嶋上郡衙	官衙	奈良・平安		弥生土器、土師器、瓦	

フリガナ 所収遺跡名	シマガミグンガ 嶋上郡衙　43－F地区
フリガナ 所　在　地	オオサカフ タカツキシ グンゲシンマチ 大阪府高槻市郡家新町395－19

コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50′ 52″	135° 36′ 07″	19970626	10.0 ㎡	個人住宅 建設工事
27207	39					

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
嶋上郡衙	官衙	奈良・平安			

フリガナ 所収遺跡名	シマガミグンガ 嶋上郡衙　57－G地区
フリガナ 所　在　地	オオサカフ タカツキシ カワニシチョウイッチョウメ 大阪府高槻市川西町一丁目972－7

コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50′ 48″	135° 36′ 25″	19971013 ～ 19971017	8.0 ㎡	個人住宅 建設工事
27207	39					

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
嶋上郡衙	官衙	奈良・平安			

フリガナ 所収遺跡名	ｼﾏｶﾞﾐｸﾞﾝｶﾞ 嶋上郡衙　67－C地区					
フリガナ 所　在　地	ｵｵｻｶﾌ ﾀｶﾂｷｼ ｶﾜﾆｼﾁｮｳｲｯﾁｮｳﾒ 大阪府高槻市川西町一丁目1087－17					
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50′ 43″	135° 36′ 25″	19971215 ～ 19971226	8.0 ㎡	個人住宅 建設工事
27207	39					

所収遺跡名	種別	時　代	主な遺構	主な遺物	特記事項
嶋上郡衙	官衙	奈良・平安			

フリガナ 所収遺跡名	ｼﾏｶﾞﾐｸﾞﾝｶﾞ 嶋上郡衙　74－K地区					
フリガナ 所　在　地	ｵｵｻｶﾌ ﾀｶﾂｷｼ ｸﾞﾝｹﾞｼﾝﾏﾁ 大阪府高槻市郡家新町156－36					
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50′ 41″	135° 36′ 12″	19970512	4.0 ㎡	個人住宅 建設工事
27207	39					

所収遺跡名	種別	時　代	主な遺構	主な遺物	特記事項
嶋上郡衙	官衙	奈良・平安			

フリガナ 所収遺跡名	ｼﾏｶﾞﾐｸﾞﾝｶﾞ 嶋上郡衙　74－N地区					
フリガナ 所　在　地	ｵｵｻｶﾌ ﾀｶﾂｷｼ ｸﾞﾝｹﾞｼﾝﾏﾁ 大阪府高槻市郡家新町159－10					
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50′ 39″	135° 36′ 11″	19970624	6.0 ㎡	個人住宅 建設工事
27207	39					

所収遺跡名	種別	時　代	主な遺構	主な遺物	特記事項
嶋上郡衙	官衙	奈良・平安			

フリガナ 所収遺跡名	ｼﾏｶﾞﾐｸﾞﾝｶﾞ 嶋上郡衙　84－B地区					
フリガナ 所　在　地	ｵｵｻｶﾌ ﾀｶﾂｷｼ ｲﾏｼﾛﾁｮｳ 大阪府高槻市今城町164－18					
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50′ 39″	135° 36′ 12″	19970611	6.0 ㎡	個人住宅 建設工事
27207	39					

所収遺跡名	種別	時　代	主な遺構	主な遺物	特記事項
嶋上郡衙	官衙	奈良・平安			

フリガナ 所収遺跡名	ﾊﾑﾛ 土室（97－1）
フリガナ 所　在　地	ｵｵｻｶﾌ ﾀｶﾂｷｼ ｶﾐﾊﾑﾛﾛｸﾁｮｳﾒ 大阪府高槻市上土室六丁目131－39・51

コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50′ 43″	135° 34′ 47″	19970418	4.0 ㎡	個人住宅 建設工事
27207	5					

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
土室	集落	古墳			

フリガナ 所収遺跡名	ﾐﾔﾀ 宮田（97－1）
フリガナ 所　在　地	ｵｵｻｶﾌ ﾀｶﾂｷｼ ﾐﾔﾀﾁｮｳｻﾝﾁｮｳﾒ 大阪府高槻市宮田町三丁目89－2

コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50′ 25″	135° 35′ 42″	19970617	6.0 ㎡	個人住宅 建設工事
27207	19					

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
宮田	集落	弥生～中世			

フリガナ 所収遺跡名	ﾐﾔﾀ 宮田（97－2）
フリガナ 所　在　地	ｵｵｻｶﾌ ﾀｶﾂｷｼ ﾐﾔﾀﾁｮｳｻﾝﾁｮｳﾒ 大阪府高槻市宮田町三丁目88－5

コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50′ 27″	135° 35′ 42″	19970707	6.0 ㎡	個人住宅 建設工事
27207	19					

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
宮田	集落	弥生・中世			

フリガナ 所収遺跡名	ﾁｭｳｼﾞｮｳ 中城（97－1）
フリガナ 所　在　地	ｵｵｻｶﾌ ﾀｶﾂｷｼ ｼｮｳﾜﾀﾞｲﾁｮｳﾆﾁｮｳﾒ 大阪府高槻市昭和台町二丁目162

コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 49′ 29″	135° 35′ 23″	19970428	9.0 ㎡	個人住宅 建設工事
27207	47					

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中城	集落	中世			

フリガナ 所収遺跡名	チュウジョウ 中城（97－2）					
フリガナ 所　在　地	オオサカフ タカツキシ ショウワダイチョウニチョウメ 大阪府高槻市昭和台町二丁目129					
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 49′ 30″	135° 35′ 24″	19970430	6.0 ㎡	個人住宅 建設工事
27207	47					
所収遺跡名	種別	時　代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
中　城	集落	中　世				

フリガナ 所収遺跡名	チュウジョウ 中城（97－3）					
フリガナ 所　在　地	オオサカフ タカツキシ ショウワダイチョウニチョウメ 大阪府高槻市昭和台町二丁目162－2					
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 49′ 29″	135° 35′ 23″	19970630	9.0 ㎡	個人住宅 建設工事
27207	47					
所収遺跡名	種別	時　代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
中　城	集落	中　世				

フリガナ 所収遺跡名	チュウジョウ 中城（97－4）					
フリガナ 所　在　地	オオサカフ タカツキシ ショウワダイチョウニチョウメ 大阪府高槻市昭和台町二丁目156－1					
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 49′ 28″	135° 35′ 24″	19971120	9.0 ㎡	個人住宅 建設工事
27207	47					
所収遺跡名	種別	時　代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
中　城	集落	中　世				

フリガナ 所収遺跡名	ミヤノガワラ 宮之川原（97－1）					
フリガナ 所　在　地	オオサカフ タカツキシ ミヤノガワラゴチョウメ 大阪府高槻市宮之川原五丁目527－18の一部					
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 51′ 42″	135° 36′ 03″	19970707	9.0 ㎡	個人住宅 建設工事
27207	57					
所収遺跡名	種別	時　代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
宮之川原	集落	古　墳				

フリガナ 所収遺跡名	ミヤノガワラ 宮之川原（96－2）					
フリガナ 所　在　地	オオサカフ タカツキシ ミヤノガワラゴチョウメ 大阪府高槻市宮之川原五丁目527－18の一部・19					
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 51′ 42″	135° 36′ 03″	19970707	9.0 ㎡	個人住宅 建設工事
27207	57					
所収遺跡名	種別	時　代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
宮之川原	集落	古　墳				

フリガナ 所収遺跡名	ミヤノガワラ 宮之川原（97－3）					
フリガナ 所　在　地	オオサカフ タカツキシ ミヤノガワラゴチョウメ 大阪府高槻市宮之川原五丁目505－36					
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 51′ 42″	135° 36′ 04″	19970729	9.0 ㎡	個人住宅 建設工事
27207	57					
所収遺跡名	種別	時　代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
宮之川原	集落	古　墳				

フリガナ 所収遺跡名	アクタガワ 芥川（97－1）					
フリガナ 所　在　地	オオサカフ タカツキシ トノマチ 大阪府高槻市殿町70－1・2の一部					
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 51′ 02″	135° 36′ 41″	19971121 ～ 19971130	9.0 ㎡	個人住宅 建設工事
27207	57					
所収遺跡名	種別	時　代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
宮之川原	集落	古　墳				

フリガナ 所収遺跡名	ダイゾウジ 大蔵司（97－1）					
フリガナ 所　在　地	オオサカフ タカツキシ ダイゾウジサンチョウメ 大阪府高槻市大蔵司三丁目295－2					
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 51′ 32″	135° 36′ 08″	19970904	4.0 ㎡	個人住宅 建設工事
27207	56					
所収遺跡名	種別	時　代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
大蔵司	集落	弥生～中世				

フリガナ 所収遺跡名	ﾀｲｿｳｼﾞ 大蔵司（97－2）
フリガナ 所　在　地	ｵｵｻｶﾌ ﾀｶﾂｷｼ ﾀｲｿｳｼﾞｻﾝﾁｮｳﾒ 大阪府高槻市大蔵司三丁目295－1・295－2の一部

コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 51′ 32″	135° 36′ 08″	19970904	4.0 ㎡	個人住宅 建設工事
27207	56					

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大蔵司	集落	弥生～中世			

フリガナ 所収遺跡名	ﾀｶﾂｷｼﾞｮｳ 高槻城（97－1）
フリガナ 所　在　地	ｵｵｻｶﾌ ﾀｶﾂｷｼ ｵｵﾃﾁｮｳ 大阪府高槻市大手町1168－2・5・6

コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50′ 37″	135° 37′ 31″	19970529	4.0 ㎡	個人住宅 建設工事
27207	85					

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
高槻城	城跡	中世・近世			

フリガナ 所収遺跡名	ﾀｶﾂｷｼﾞｮｳ 高槻城（97－2）
フリガナ 所　在　地	ｵｵｻｶﾌ ﾀｶﾂｷｼ ﾃﾞﾏﾙﾁｮｳ 大阪府高槻市出丸町1244－12

コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50′ 19″	135° 37′ 21″	19970808	4.0 ㎡	個人住宅 建設工事
27207	85					

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
高槻城	城跡	中世・近世			

フリガナ 所収遺跡名	ﾀｶﾂｷｼﾞｮｳ 高槻城（97－3）
フリガナ 所　在　地	ｵｵｻｶﾌ ﾀｶﾂｷｼ ﾃﾞﾏﾙﾁｮｳ 大阪府高槻市出丸町992－1・3・6

コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50′ 20″	135° 37′ 15″	19971001 ～ 19971009	4.0 ㎡	個人住宅 建設工事
27207	85					

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
高槻城	城跡	中世・近世	堀跡		

フリガナ 所収遺跡名	ﾀｲｿｳｼﾞ 大蔵司（97－２）
フリガナ 所　在　地	ｵｵｻｶﾌ ﾀｶﾂｷｼ ﾀｲｿｳｼﾞｻﾝﾁｮｳﾒ 大阪府高槻市大蔵司三丁目295－１・295－２の一部

コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 51′ 32″	135° 36′ 08″	19970904	4.0 ㎡	個人住宅 建設工事
27207	56					

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大蔵司	集落	弥生～中世			

フリガナ 所収遺跡名	ﾀｶﾂｷｼﾞｮｳ 高槻城（97－１）
フリガナ 所　在　地	ｵｵｻｶﾌ ﾀｶﾂｷｼ ｵｵﾃﾁｮｳ 大阪府高槻市大手町1168－２・５・６

コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50′ 37″	135° 37′ 31″	19970529	4.0 ㎡	個人住宅 建設工事
27207	85					

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
高槻城	城跡	中世・近世			

フリガナ 所収遺跡名	ﾀｶﾂｷｼﾞｮｳ 高槻城（97－２）
フリガナ 所　在　地	ｵｵｻｶﾌ ﾀｶﾂｷｼ ﾃﾞﾏﾙﾁｮｳ 大阪府高槻市出丸町1244－12

コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50′ 19″	135° 37′ 21″	19970808	4.0 ㎡	個人住宅 建設工事
27207	85					

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
高槻城	城跡	中世・近世			

フリガナ 所収遺跡名	ﾀｶﾂｷｼﾞｮｳ 高槻城（97－３）
フリガナ 所　在　地	ｵｵｻｶﾌ ﾀｶﾂｷｼ ﾃﾞﾏﾙﾁｮｳ 大阪府高槻市出丸町992－１・３・６

コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50′ 20″	135° 37′ 15″	19971001 ～ 19971009	4.0 ㎡	個人住宅 建設工事
27207	85					

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
高槻城	城跡	中世・近世	堀跡		

フリガナ 所収遺跡名	ｱﾏ 安満（97－1）
フリガナ 所　在　地	ｵｵｻｶﾌ ﾀｶﾂｷｼ ﾀｶｶﾞｷﾁｮｳ 大阪府高槻市高垣町271

コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 51′ 17″	135° 38′ 22″	19970509 ～ 19970625	280.0 ㎡	個人住宅 建設工事
27207	83					

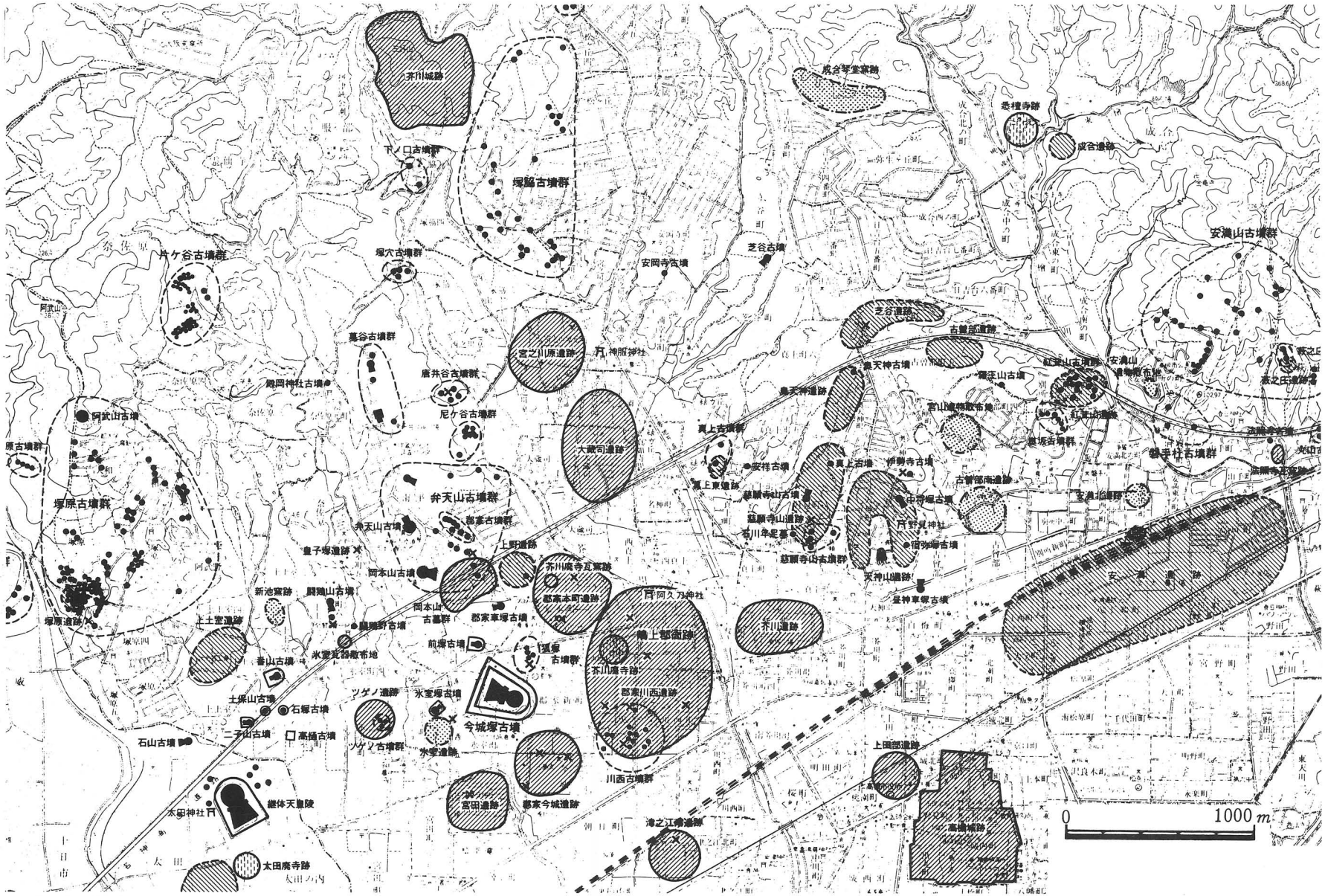
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
安満	集落	弥生～中世	井戸、溝、土壙墓 方形周溝墓	弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、斎串	

フリガナ 所収遺跡名	ｱﾏ 安満（97－2）
フリガナ 所　在　地	ｵｵｻｶﾌ ﾀｶﾂｷｼ ﾀｶｶﾞｷﾁｮｳ 大阪府高槻市高垣町263－1

コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 51′ 17″	135° 38′ 23″	19970612 ～ 19970625	80.0 ㎡	個人住宅 建設工事
27207	83					

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
安満	集落	中世	井戸、溝、土坑	土師器、瓦器	

図　　版

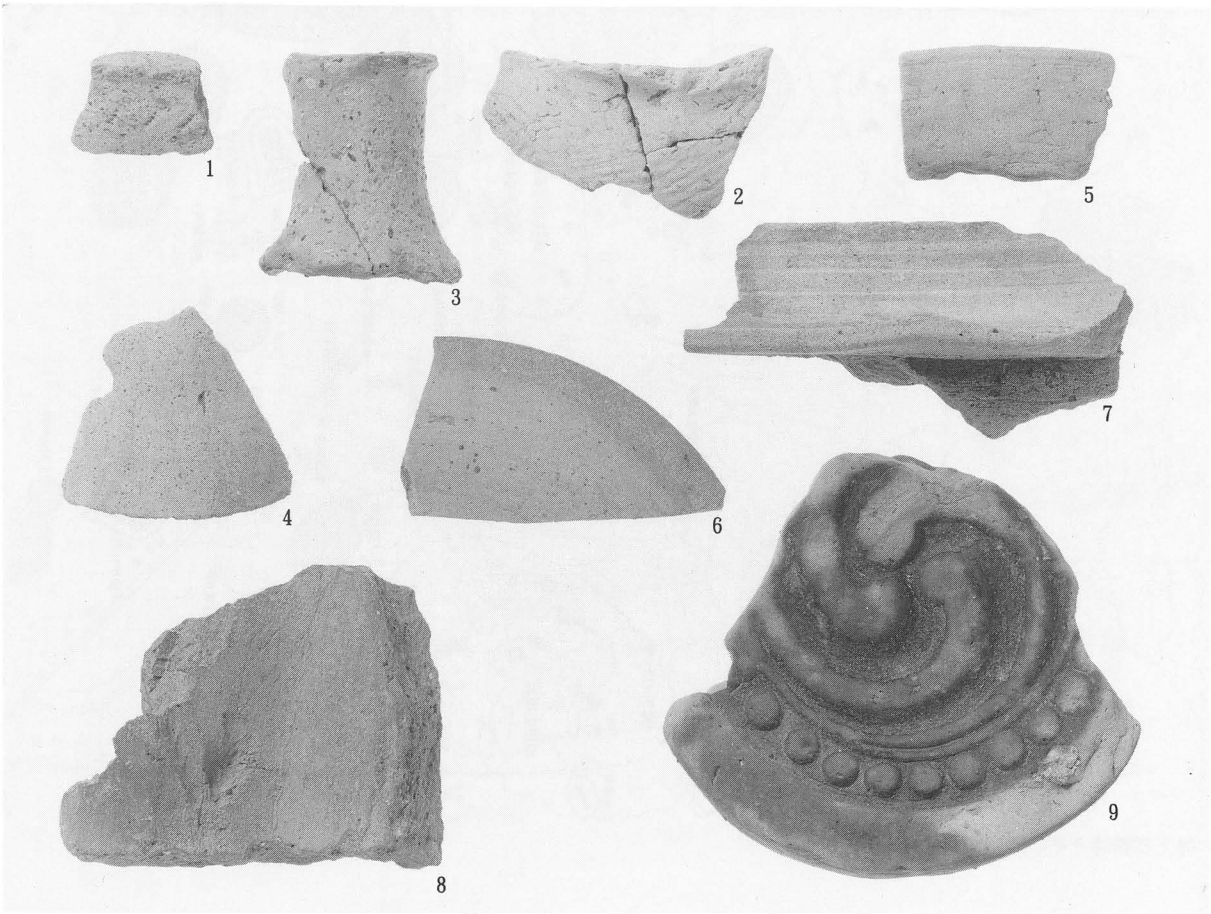


嶋上郡衙跡とその周辺

図版第1

図版第2

a．嶋上郡衙跡（28－O地区）　全景（南側から）



b．嶋上郡衙跡（28－O地区）　出土遺物（1～9）

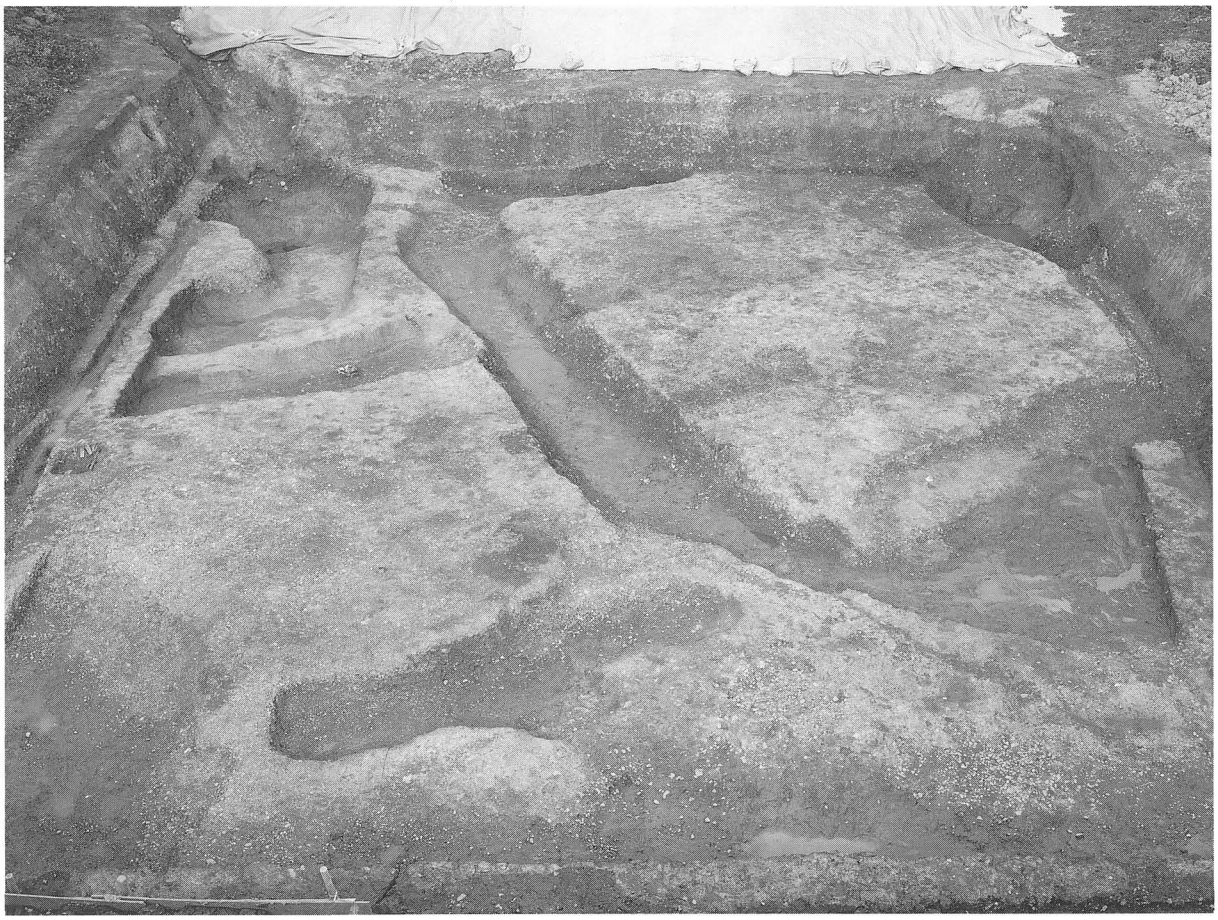
a．嶋上郡衙跡（57－G地区）　全景（北側から）

b．嶋上郡衙跡（57－G地区）　全景（南側から）

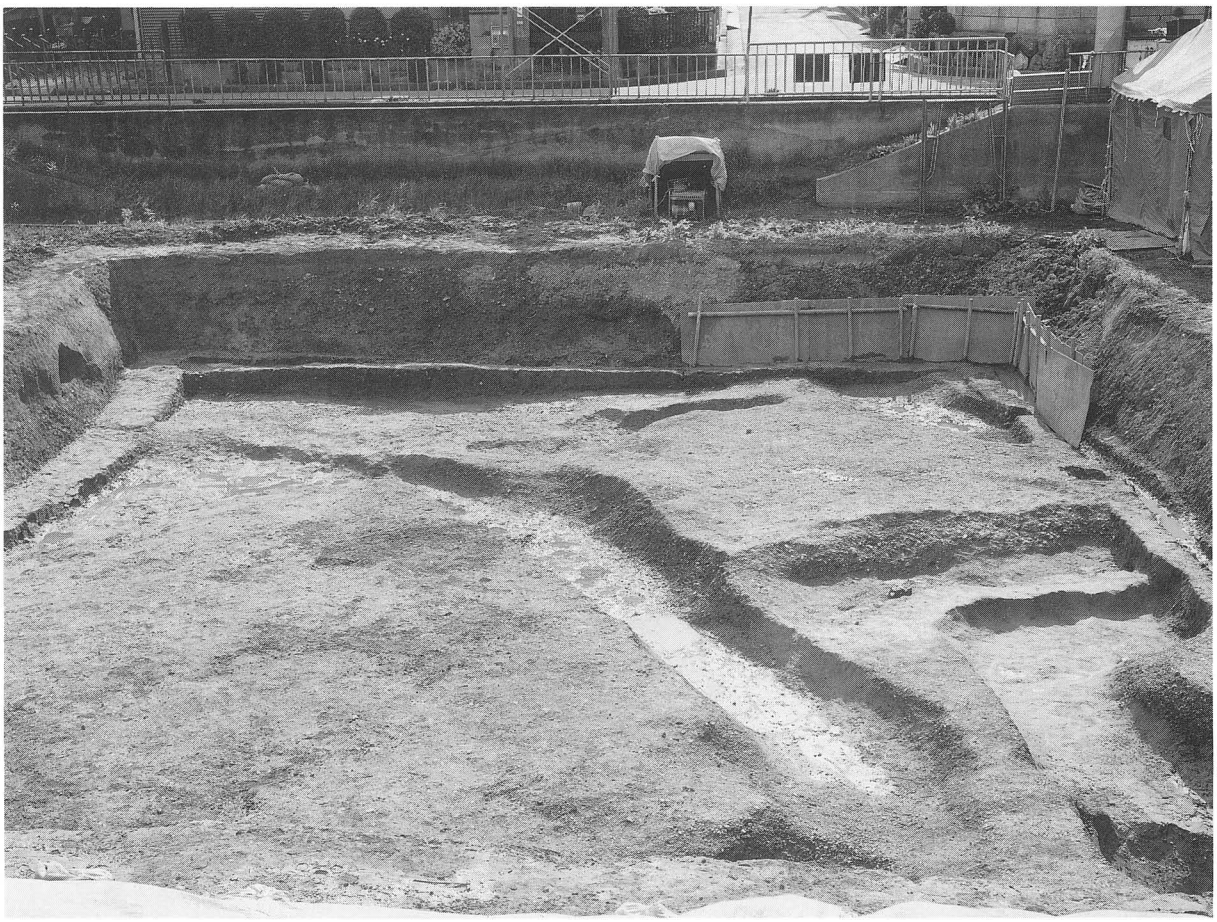
図版第4

a．宮田遺跡（97－1地区）　全景（南側から）

b．宮田遺跡（97－2地区）　全景（東側から）



a．安満遺跡（97－1地区）　A区全景（西側から）



b．安満遺跡（97－1地区）　A区全景（東側から）

図版第6

a．安満遺跡（97－1地区）　B区全景（東側から）

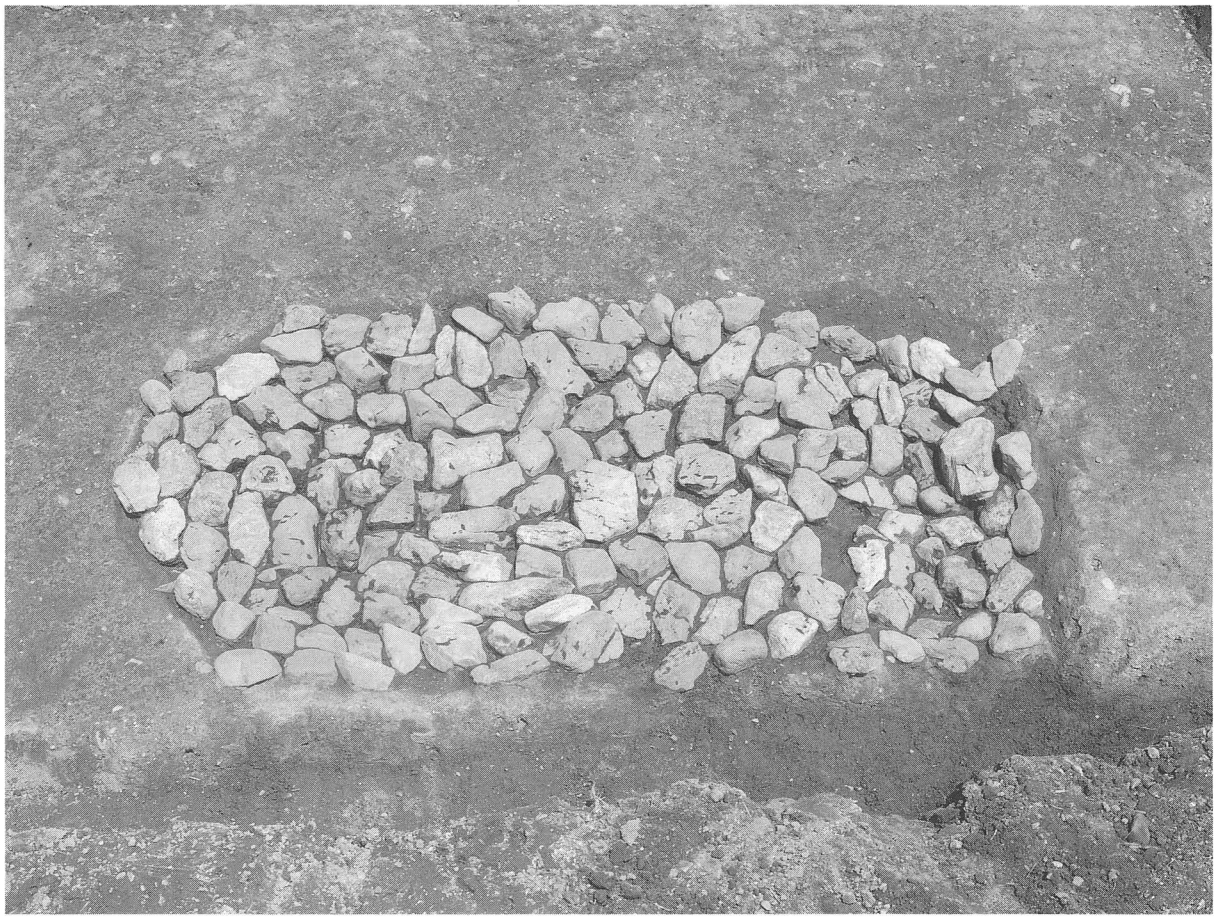
b．安満遺跡（97－1地区）　B区全景（西側から）

c．安満遺跡（97－1地区）　井戸1（北側から）

a．安満遺跡（97－1地区）　方形周溝墓1～4（南西側から）

b．安満遺跡（97－1地区）　方形周溝墓2　土器出土状態（南側から）

図版第8



a．安満遺跡（97－1地区）　土坑1（南側から）

b．安満遺跡（97－1地区）　土坑1（東側から）

a．安満遺跡（97－1地区）　土坑1・3，溝2（南側から）

b．安満遺跡（97－1地区）　土坑1・3，溝2（東側から）

図版第10

2

3

5

4

安満遺跡（97－1地区）　方形周溝墓2（2・3）　井戸1（4・5）

6

8

7

10

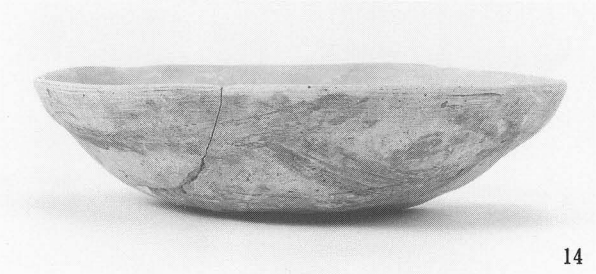
9

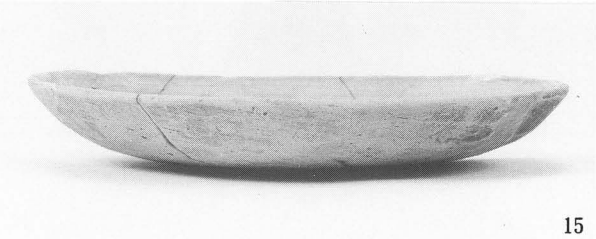
11

安満遺跡（97－1地区）　井戸1（6～11）

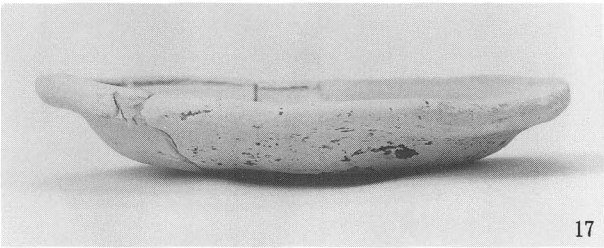
12

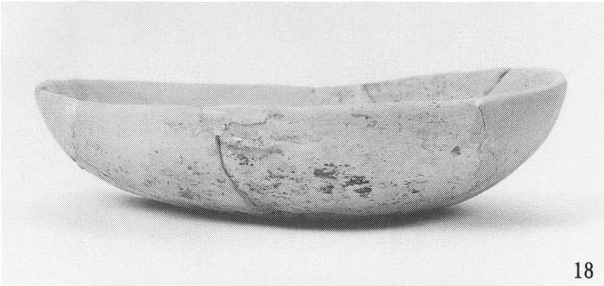
13

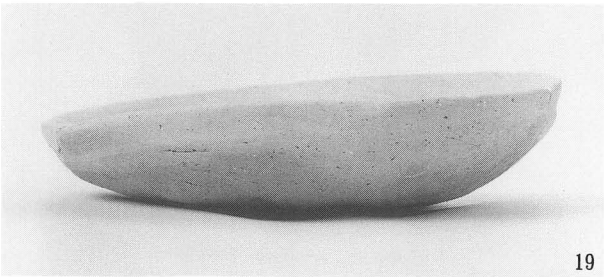

14

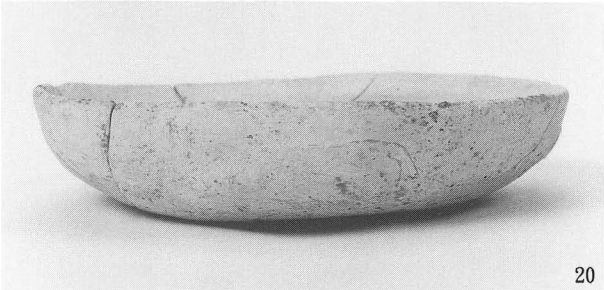

15

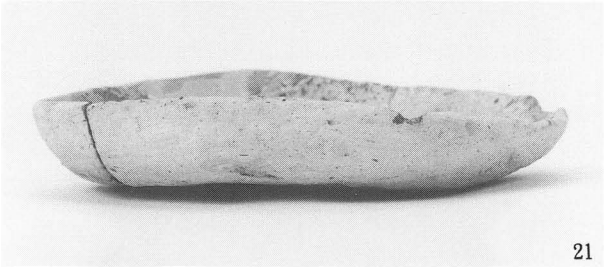
16


17


18

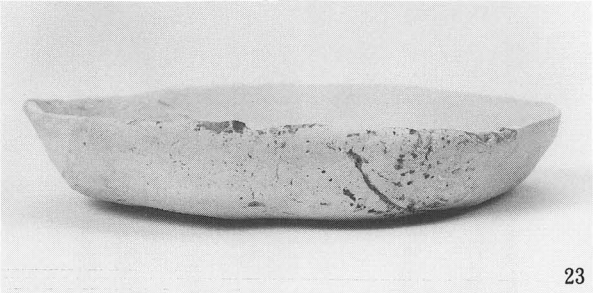

19


20


21

22

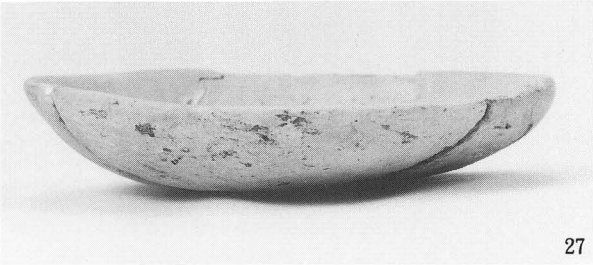
安満遺跡（97－1地区）　下層包含層（12）　井戸2（14・15）　土坑1（16）　土坑2（17）　土坑3（13）　溝1（17～22）


23

24

25

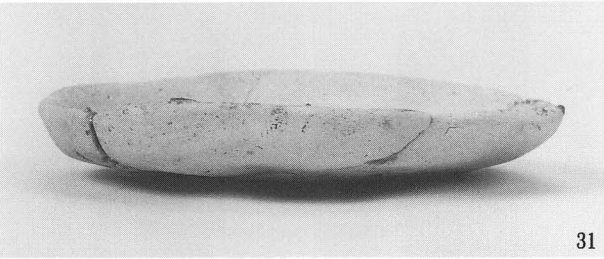
26

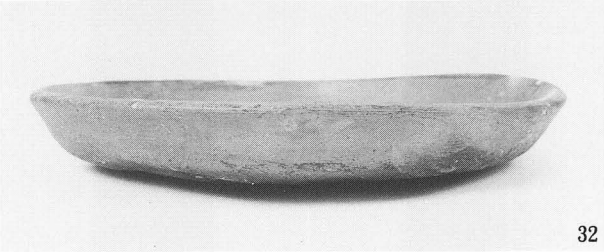

27

28

29

30


31


32

33

34

35

安満遺跡（97－1地区）　溝1（23～35）